

2012 年度ゼミ論文

主査 浦野 正樹先生

街のイメージの成立と改善

～東京都足立区における「誇れる街」づくり～

“A study on the formation and improvement of the image of a city,
~planning the city, we can be proud of, in Adachi ward~”

総頁数 56 ページ

文化構想学部 社会構築論系
浦野正樹ゼミナール（地域・都市論）
学籍番号 1T090358-9
黒川珠世

目次

はじめに	3
第1章 論文概要	4
第1節 研究目的	4
第2節 研究対象・研究動機	4
第3節 研究方法	5
第4節 先行研究	5
第2章 東京都足立区の概要	7
第1節 地理的特徴	7
第2節 人口構成	9
第3節 産業・経済	11
第4節 交通	14
第1項 鉄道	14
第2項 道路	14
第3章 足立区のイメージ	16
第1節 インターネットでのイメージ	16
第2節 世論調査から見るイメージ	21
第4章 イメージの実態	25
第1節 治安	25
第2節 経済状況	27
第3節 教育	29
第4節 マイナスイメージによる問題点	30
第5章 足立区の歴史	34
第1節 江戸時代までの足立と東京への編入	34
第2節 明治～関東大震災	34
第3節 戦争から高度経済成長期へ	36
第4節 昭和後期～平成の足立区	36
第5節 変わる足立区	37
第6章 イメージ改善のための取り組み	39
第1節 取り組みの概要	39
第2節 「ビューティフル・ウィンドウズ」政策	39
第1項 割れ窓理論の概要	40
第2項 ニューヨークの事例	41
第3項 足立区における実践	42
第3節 シティプロモーション課の役割	45

第4節 「誇れる街」に向けて.....	46
第7章 まとめ.....	49
第1節 論文の流れ.....	49
第2節 本論文の意義.....	50

はじめに

人々は様々な街に対して、訪れた事の有無にかかわらず何らかのイメージを抱くことがある。表参道といえばそれだけで「おしゃれな街」、渋谷といえば「若者の街」、田園調布といえば「高級住宅街」などのイメージを持たれていることが多い。イメージの良いまちは、そのイメージを好み消費したいと考える人々を集め、賑わいをみせる。人口の多い都市のなかでは、ある種の記号性を持った街が生まれてくる。街のイメージと発展との関係については、様々な研究がなされてきた。

このように、人々から高評価を受ける街が数多くあるのに対し、「大阪市西成区は治安が悪い」など、悪いイメージを持たれる街もある。そうした街は、実際に訪れた経験の有無に関わらず、「住みたくない」「行きたくない」と考えられてしまう。これまではそうした街を材料に格差社会への不安を煽ったり、そうした街を「下層」だと蔑んだりするような報道や文献が多かった。しかし、イメージが良くないとされる街においても、他の街と同様に、住民が暮らしている。イメージが悪いということが、新たな人口流入を妨げるだけでなく、そこに暮らす住民達にとっても、街への愛情や誇りを喪失することに繋がってしまうのではないかと私は危惧する。そうした懸念を乗り越え、街のマイナスイメージの成立経緯を探り、またそれを回復するための方策を模索することが本研究の意義である。

第1章 論文概要

第1節 研究目的

当論文の第一の目的は、街のイメージが形成される経緯を探ることである。そして、イメージと実態、そこに暮らす住民の意識との間に存在する可能性のあるギャップをつかむことである。

第二の目的として、イメージがその地域の住民に与える影響についての考察である。自分が暮らす街に付随するイメージ、特に悪いイメージに対し住民はどのように感じているのだろうか。外部から悪いイメージを抱かれるような街に対して、住民は愛着や誇りを感じて居住しているのか。それとも、ただ我慢して住んでいるのか。はたまた、イメージを改善しようとする動きが生まれているのか。特に、街に対する「誇り」という言葉をキーワードに調査を行う。

このように、当論文では「イメージ」と「誇り」という二点を中心に、筆者が生まれ育った街である東京都足立区の事例から考えていきたい。その上で、住民が足立区に誇りを持つための方法について提言を行いたいと考えている。

当然のことながら、街のイメージというのは一朝一夕で変えられるものではなく、また様々な要素が複雑に絡み合い成り立つものである。そのため、イメージの変革・改善に向けては、中長期的な視点で取り組んでいく必要があることは調査の前提条件である。なお、ここでいうイメージとは対象への「～ではないか」という想像一般のことを意味し、哲学、心理学、認知科学等で長年問題とされている、イメージとは何かという問いには言及しない。

第2節…研究対象・研究動機

前節で述べたとおり、東京都足立区を研究対象とし、街のイメージについて調べることとする。足立区は筆者の生まれ育った地域であり、小中学校時代の友人や近隣の住民を中心に、住民との繋がりも強い。平成2年から現在まで居住するなかで、内外から足立区に対する悪評を耳にする機会が多かった。特に、小泉政権下の格差ブーム以降、その傾向が顕著であると、一住民として感じていた。

筆者の耳にした噂やインターネットの書き込みでは、足立区といえば、「治安が悪い」「貧困地域」「ヤンキーが多い」「学力が低い」などという悪評が聞かれる。こうしたイメージは的を射ていると感じる事もあるが、必要以上に大げさにとらえられていると感じる事も多い。しかし、周囲の人々から、出身地に対するこうした評価を受けるうちに、自分自身が足立区への愛情を失っていったのも事実である。自分が暮らす街にこのような負のイメージが広がった経緯を知り、イメージ回復の方法を模索することで、筆者自身も足立区への「誇り」を得ることが出来たらと考えている。

第3節 研究方法

論文の前半では、足立区の特徴とイメージの様相を明らかにする。まず、インターネットや各種統計からわかる足立区像を分析する。そして、そのイメージと街の実態との相違点を、以下の仮説のもと探っていきたい。

一つ目は、マスコミによる報道や口コミ、インターネットの書き込みが街のイメージに影響を与えている、という「外因説」である。

二つ目は、イメージを規定するのはその街の社会構造であり、その社会構造には地理的歴史的要因があるという「内因説」である。

このような仮説を踏まえた論文の前提として、まずは足立区の地理的特徴や人口、産業構造などについて、文献や統計資料をもとに調査した。その際、足立区が毎年発行している『数字で見る足立』（特に断りが無い場合は2012年12月現在最新の「平成24年度版」から引用する）などを参考した。また、足立区が行っている各種世論調査は、質問項目が大変充実しており、サンプル数も多く信ぴょう性が高いため、大いに活用させてもらうこととする。

一つ目の仮説を検証する際には、インターネットや統計などを活用する。特に、情報化社会である現代社会の特徴を踏まえて、イメージを形成する要因としてインターネットの匿名コミュニティサービスに注目した。また、足立区のイメージに対する住民自身の意識を、行政によるアンケートや統計から分析する。

論文の中盤では二つ目の仮説である内因説を検証するために、明治以来の足立区の歴史を調査する。その上で、現在の社会構造と照らし合わせながら、街のイメージが形成された過程をたどる。

論文の終盤では、足立区の行政が行っている「イメージ向上」の為の施策について、その代表的取り組みである「ビューティフル・ウィンドウズ運動」を中心にみていきたい。施策の概要と住民の受け止め方、運動の効果について、本施策のモデルとなったアメリカの事例と比較しながらまとめる。また、足立区のイメージや「誇り」を変化させるような住民の動きにも注目したい。この部分は、本論文の核であり、区役所の各担当者や関係する住民へのヒアリングを中心に調査を進めていく。

その上で、結論部においては、今後足立区が「誇れるまち」となるために必要な要素を提言したい。この部分では、先に述べた行政の動きに対する事業評価を下すとともに、街のイメージに関する諸文献やイメージを向上させた事例に触れる。他の自治体が現在行なっている取り組みを参考に、またそれらとの比較を通して、今後の足立区について考えていきたい。

第4節 先行研究

足立区に関する先行研究としては、浦野正樹・下村恭広編『まちづくり活動の実態と可能性--足立区・荒川区・台東区・葛飾区の現状と課題--（2002年度社会調査実習レポート）

社会学演習ⅢC)が挙げられる。この研究の意義は、足立区全体をその地域的特性から、①千住地区、②「川向こう」の地区、③「外周部」の地区、という3つの区域に分け、それぞれの歴史的な特徴と相違点をふまえた上で足立区のまちづくりを論じたことである。①から順にそれぞれ宿場町に起源をもつ商業地域、東京の近代化の中で発達した工業地域、戦後に開発が行われた郊外型新興住宅地、としての性格を持つ。②の「川向こう」という語は差別的な意味合いを含むため、街のイメージを論ずる当論文においては用いず、地域の性質から「商業地区」、「中小工業地区」、「住宅中心地区」と分ける。この先行研究からわかる足立区の歴史、及びこの研究が行われた2002年以降の歴史については、これを踏まえて第5章で扱いたい。

書籍では、マイクロマガジン社の『地域批評シリーズ 日本の特地域①東京都足立区』（昼間たかし編）や、その続編である『地域批評シリーズ 日本の特地域②これでいいのか足立区2』（昼間たかし・伊藤圭介編）がある。これらは足立区のイメージの実態を住民の生活に沿って描こうとした点で意義深い。書籍としてのエンタテインメント性に倒市マイナスイメージを助長する内容に偏っている印象を受ける。

また、街のイメージに関する研究は、比較的新しい研究分野であり、その創始者たるケヴィン・リンチの『都市のイメージ』（1960年）以降徐々に研究がなされている。リンチは、都市のイメージを規定するのは「わかりやすさ」であり、イメージは「アイデンティティ」、「意味」、「構造」の3成分から成ると主張する。リンチのイメージ理論については、結論部の第7章で利用する。

日本における特定の自治体や地区が持つイメージは、人文地理学の分野においては全国で研究がなされている。たとえば、鳥取環境大学の趙漢賢らは、リンチの理論をもとに鳥取県鳥取市のイメージに関する調査を行っている。¹都市計画の分野では、『情報メディアが構築する街のイメージに関する研究—店舗情報の空間分布に着目して—²』という論文が2007年、鈴木宏樹らによって発表された。また、観光や地域振興の分野では、「コンテンツツーリズム」など既存のイメージを利用した地域の活性化が行われている。このように、街とイメージとは切っても切れない関係があることに多くの人が気づいている。逆説的にいえば、イメージのかじ取りを行うことで、魅力ある街づくりに一役買うことが出来る。

しかし、こうしたいずれの手段・方法によっても、マイナスのイメージ（スティグマ・負のレッテル）を抱えた地域におけるイメージの改善を論じたものは少なく、とくに東京都足立区が持つ負のイメージを扱った先行研究は無い。

¹ <https://www.kankyo-u.ac.jp/f/845/1085.pdf> (2012/12/15 閲覧)

² 日本都市計画学会 http://www.cpij.or.jp/com/ac/reports/5-4_121.pdf(2012/12/15 閲覧)

第2章 東京都足立区の概要

本章では、イメージを語る前にまず調査対象地域である東京都足立区の概要を述べる。イメージを形作る「先入観」に惑わされないようにするためである。

第1節 地理的特徴

足立区は東京都23区の最北端に位置し、区域の総面積が53.20平方キロメートルで大田区世田谷区に次ぐ第3位の広さである。東は葛飾区、西は北区と埼玉県川口市、南は葛飾区、墨田区、荒川区に、北は埼玉県川口市、草加市、八潮市に隣接している。四方を河川に囲まれ、やや扇状の地形を成す。足立区はそのむかし、海辺に接する低湿地帯であった。その後、長い歳月を経て河川が運んできた土砂が積もり、海水が後退して沖積低地と言われる陸地が形成された。したがって、最高地（舎人地区）と最低地（千住地区）の差が約5.8メートルという平坦な土地である。区の南側を荒川（放水路）が分断しており、上流から順に鹿浜橋、江北橋、扇大橋、西新井橋、千住新橋、堀切橋の6つの橋が架かる。

荒川放水路は旧荒川（現在の隅田川）の相次ぐ氾濫に対応するため計画された、人工の河川である。明治40年と43年の大洪水を受け、1913（明治44）年から荒川放水路事業が開始され、1930（昭和5）年に完成した。この放水路の完成により、水害のリスクが低まった。

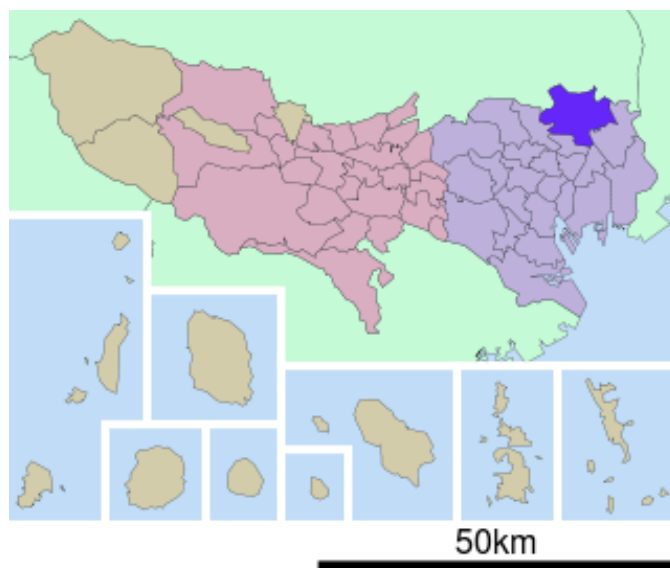


図1 東京都における足立区の位置 wikipedia"足立区"より



図 2 足立区地図 アバマンショップ北千住東口(<http://apamansenju.com/entry/65539>)

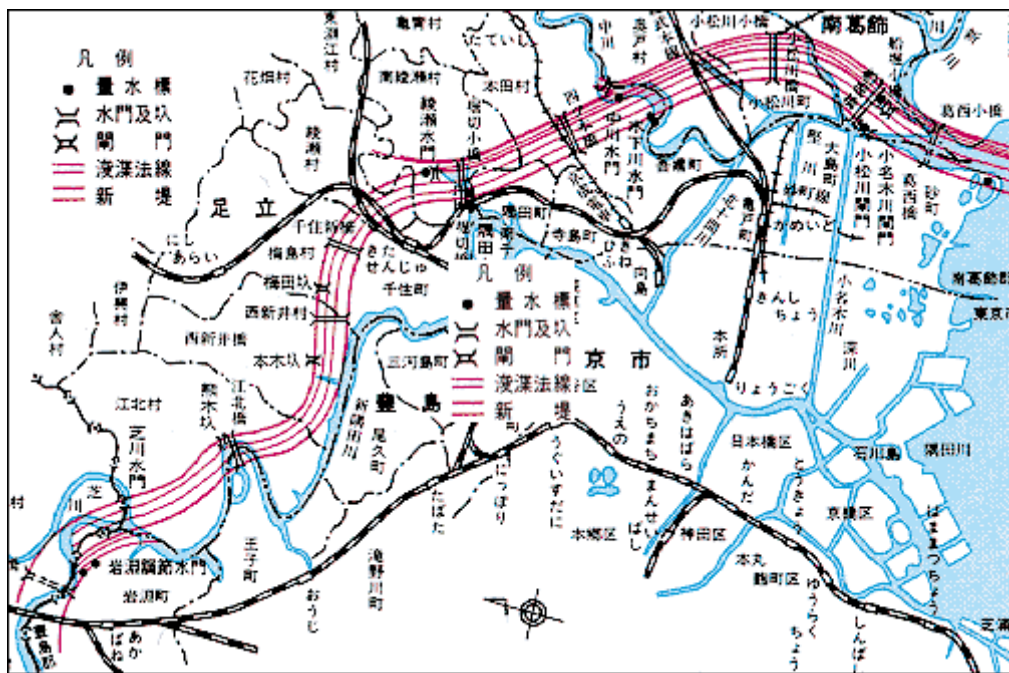


図 3 荒川放水路改修平面図 (明治44年当時) 国土交通省関東地方整備局

第2節…人口構成

人口総数は平成24年1月1日現在668,730人、世田谷区・練馬区・大田区・江戸川区に次いで23区中第5位の人口を持つ。人口密度は12,570人/km²、面積の広さもあり23区中で6番目に低い。また、外国人の割合が高いのが特徴で、足立区内の外国人登録者は23,059人と新宿区・江戸川区に次いで3番目である。その内訳は中国籍が最も多く、次いで韓国及び朝鮮籍、フィリピン籍となっている。³

図4は統計が開始された明治33年から平成22年までの足立区の人口推移を表したグラフである。1923（大正12）年の関東大震災以後人口増加が激しくなったが、1945（昭和20）年の東京大空襲により一時減少した。しかし、戦後まもなく著しい人口増加が始まり、高度経済成長期を経て昭和55年頃まで続いた。戦災で家や職を失った人に加え、昭和30年代には、東北などからいわゆる「金の卵」たちが集団就職で集まるなど、多くの工業労働者が足立区に移り住んだ。戦後の教育改革を受け、都内では高校進学率が50%を超え、大卒者や高卒者は急成長する都心部の大企業や公務員などの職に就いた。そのため、都内の町工場や中小企業は人材不足となり、こうした中卒労働者が重宝されたのである。

バブルの頃には人口増加が緩やかになったが、平成20年以降は新しい住宅（大型マンション）の建設が相次いだことから転居者が増えたことで、再び著しい人口増加に転じている。昨年度は、高級マンションの建設ラッシュが続く豊洲地区などを持つ江東区に次ぐ、23区中2番目の人口増加数となっている。

年齢別にみると、30代・40代が最も多い。しかし、65歳以上の老年人口は146,390人であり高齢化率は約22.7%である。全国平均の23.3%（平成24年度版高齢社会白書より）に比べると低いものの、東京都の20.6%と比較すると大幅に高い。一方、0～14歳の年少人口は、全国13.1%（平成23年10月統計局より）⁴に対して12.5%とやや低いが、東京都の11.3%と比べると高い。以上から、生産年齢人口が東京都平均よりも少ない、ということが出来る。

³ 『数字で見る足立』

⁴ 人口推計（総務省）<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/2011np/index.htm>

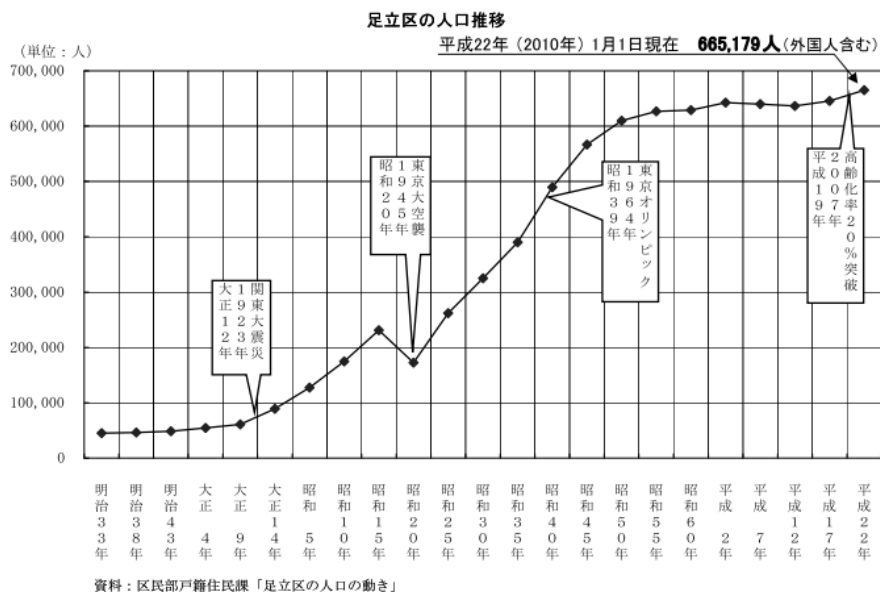


図 4 足立区の人口推移 「数字で見る足立」より

6. 世帯及び人口

(各年1.1現在)

区分 年	世帯	人口(人)			前年増減数 世帯	人口密度 (人/km ²)
		総数	男	女		
15	288,369	642,460	324,449	318,011	4,193	12,076
16	291,329	643,909	324,922	318,987	2,960	12,104
17	294,331	645,678	325,618	320,060	3,002	12,137
18	296,811	645,770	325,513	320,257	2,480	12,139
19	300,028	646,461	325,683	320,778	3,217	12,152
20	306,298	653,323	329,087	324,236	6,270	12,281
21	311,361	658,302	331,590	326,712	5,063	12,374
22	316,416	665,179	335,061	330,118	5,055	12,503
23	319,725	667,891	336,133	331,758	3,309	12,554
24	321,650	668,730	336,079	332,651	1,925	12,570

資料：区民部戸籍住民課(住民基本台帳+外国人登録法による登録者数)

図 5 世帯及び人口の推移『数字で見る足立』

第3節…産業・経済

足立区における産業大分類別の事業所数及び従業者数を見ると、「卸売業・小売業」が総事業所数 6,981 か所、従業者数 51,391 人（平成 21 年 7.1 現在）⁵と最も規模が大きい。そのうち産業小分類別にみた卸売業商店数では、「農畜産物・水産物」を扱う商店数が多い⁶。これは、区内に東京都中央卸市場のうち足立市場（鮮魚）、北足立市場（青果・花き）という 2 つの市場があることに関係すると考えられる。「小売業」の方は、東京都区部全体と比較すると割合が高いとは言えない。しかし、大型スーパーや商店街が充実しており、日常の買い物の便はいいものと思われる。

東京都区部全体から見た足立区産業の特化度を示した図 6 を参照すると、足立区に独特なものだと言えるのが、「建設業」、「製造業」、そして「運輸業・郵便業」である。「医療・福祉」の割合もやや高いといえるが、こちらは郊外の住宅地に共通する傾向であり、高齢化率の高さと相関があると考えられるためここでは除外する。事業所数から見ても、区部全体と比較すると、「運輸業・郵便業」、「建設業」、「製造業」の特化係数が高い。足立区では、こうした産業が盛んであると分かる。

一方、産業大分類別に事業所の経営組織別構成比をみると、「生活関連サービス業・娯楽業」、「宿泊業・飲食サービス業」、に加え「運輸業・郵便業」を営む事業所数の 60%以上が「個人経営」である。一方、従業員数で経営組織別にみると、「運輸業・郵便業」従事者の 93.6%が「会社」勤務となっている。各事業所の従業員数を見てみると、従業員数 1～4 名の事業所が最も多い。以上から、足立区には「運輸業・郵便業」の企業が多く、個人経営も多いという事が分かる。足立区内には様々なタクシー会社の本社・事業所がある。そして東京新足立個人タクシー協同組合や東京都個人タクシー協同組合の足立第一支部・第二支部があることから、法人或いは個人タクシーのドライバーを生業とする人が多いと推測される。

また、区内には前述の二市場や舎人地区のトラックターミナルなどがあり、貨物輸送の需要も高い。東北や北関東などから運ばれた大型貨物を小型・中型トラックに積み替え、都内各地へと運搬する役割を担っているのだろう。区の西側を走る首都高速川口線や、環状七号線、国道四号線といった幹線道路の存在から、陸上輸送の便の良い立地でもある。

そして、「建設業」も、「運輸業・郵便業」と同じく特化係数 2.0 となっている。「建設業」の事業所規模を見てみると、こちらも小規模業者が多い。

これら 2 つと共に区内で盛んとなっているのが「製造業」である。これを業種（産業中分類）別にみると、「金属製品製造業」が工場数、従業者数、製造品出荷額等の全てで最も多い。従業員数 1～3 人の工場が 279 件、4～29 人が 242 件と全体の 9 割以上を占め、従業員数 30 名以上の工場は 11 件である。

工場数、従業員数では「なめし革・同製品・毛皮製造業」がそれに次ぎ、製造品出荷額

⁵ 『数字で見る足立』 p.51 1. 産業大分類・従業者規模別事業所数及び従業員数

⁶ 同 p.35 5.産業省分類別卸売業商店数・従業者数及び年間販売額

では「業務用機器具製造業」が 2 番手となる。前者は、ハルタ製靴株式会社や株式会社ニッピといった著名な企業が伝統的に千住地区に本社を置いていたが、前者は生産拠点を地方に移し、後者は関連企業であるリーガルコーポレーションの本社所在地・千葉県浦安へ本社ごと移転した。現在区内で革製品を製造しているのは、従業員数が 0~4 名などの小規模事業所が多い。一方、「業務用機器具製造業」は、工場総数 90、従業員数 898 人と少ないものの、製造品出荷額が大きい。金属や革製品などの「製造業」が増加した背景には、首都東京の発展と拡大、都市計画等が挙げられるが、詳しくは第 4 章で述べることとする。

こうした第二次産業に加えて、従業者数や事業所数といった数字では余り大きく現れないが、都内では農業が盛んな地域に数えられる。四方を川に囲まれた立地や、見沼代用水の整備によって江戸時代より農業が盛んであった。野菜づくり、特に小松菜農業が盛んであり、延べ作付面積は 62ha、都内では原産地小松川のある江戸川区に次いで 23 区中第 2 位の収穫量を誇る（平成 22 年現在）。次いでエダマメが延べ作付面積 15ha、収穫力は 23 区中第 1 位である（平成 20 年現在）。⁷

しかし、農業においても製造業などと同様小規模農家が多く、農地面積では第 6 位となる⁸。その上、近年は自給的農家が増加したものの販売農家数が減少し、販売農家数は専業農家が 34 件、兼業農家が 82 件の計 116 件となっており、都内でも高い減少率となっている。また、耕作放棄地の増加率が都内最大であり。さらに、全国の農業と同様に農業従事者は高齢化傾向にあり平均年齢は約 63 歳となるなど、地場産業としては縮小傾向にある。しかし、都内の他の自治体と比較すると「後継者あり」の割合が高く 69.0%となっているため、今後も細々とではあるが持続していくものと考えられる。⁹

まとめると、足立区の産業の特徴は、第一に「建設業」、「製造業」、「運輸業」といったいわゆる「ブルーカラー」労働を行う企業や労働者が多いこと。第二に、製造業では個人経営などの小規模事業所が多く、金属製品や革製品の製造といった「地場産業」が盛んであること。第三に、都区部と比較すると農業が盛んであることなどが挙げられる。

⁷ 足立都市農業振興プラン 2012/12/10 閲覧

http://www.city.adachi.tokyo.jp/s-shinko/ku/kuse/documents/d03500002_2.pdf

⁸ http://bizex.goo.ne.jp/column/ip_1/122/12/ 2012/12/10 閲覧

⁹ 「あだちの農業 2010 年世界農林業センサス結果報告」

表 3-3 産業大分類別会社企業の特化係数

産業大分類	足立区		区部		特化係数
	事業所数	構成比	事業所数	構成比	
総数	11,013	100.0	232,775	100.0	1.0
農業, 林業	8	0.1	188	0.1	0.9
漁業	0	0.0	12	0.0	0.0
鉱業, 採石業, 砂利採取業	0	0.0	52	0.0	0.0
建設業	2,251	20.4	23,918	10.3	2.0
製造業	2,442	22.2	34,420	14.8	1.5
電気・ガス・熱供給・水道業	1	0.0	91	0.0	0.2
情報通信業	141	1.3	17,166	7.4	0.2
運輸業, 郵便業	461	4.2	4,877	2.1	2.0
卸売業, 小売業	2,665	24.2	59,903	25.7	0.9
金融業, 保険業	103	0.9	3,975	1.7	0.5
不動産業, 物品賃貸業	1,078	9.8	27,374	11.8	0.8
学術研究, 専門・技術サービス業	353	3.2	19,523	8.4	0.4
宿泊業, 飲食サービス業	415	3.8	15,311	6.6	0.6
生活関連サービス業, 娯楽業	323	2.9	9,654	4.1	0.7
教育, 学習支援業	60	0.5	2,385	1.0	0.5
医療, 福祉	128	1.2	2,374	1.0	1.1
複合サービス事業	0	0.0	9	0.0	0.0
サービス業 (他に分類されないもの)	584	5.3	11,543	5.0	1.1

図 6 足立の産業構造 平成 21 年経済センサス 1

第4節 交通

第1項 鉄道

足立区内を走る鉄道路線及び各駅は以下の通りである。また、地図上の位置は先の図2で示した。

区の南側、千住地区の中央に位置する北千住駅は、足立区と都心とを結ぶターミナル駅として重要な意味を持つ。都内有数の乗降客数を誇り、JR線では2011年現在国内11位¹⁰となっている。これは、山手線外の駅では最多である。東京メトロ日比谷線及び千代田線に直通し、銀座や大手町といった都心へ約20～30分で行くことが出来る。西口には丸井やルミネといった若者向けの商業施設があり、駅前通りには「きたろーど商店街」、40メートルほど進むとファミリーや年配向けの北千住宿場町商店街（サンロード商店街）が栄える。一方、東口の駅前には足立学園中学・高等学校とそれにちなんで名づけられた「学園通り」商店街があり、レトロな下町の情緒が漂う。平成24年4月には東京電機大学千住キャンパスが開学し、地元住民だけでなく多くの学生たちによって賑わいを見せている。

こうした北千住駅の便利さの一方で、足立区全体は長きにわたって「鉄道不毛の地」と言われ続ける状況が続いていた。1896（明治29）年に現在のJR常磐線、1899（明治32）年に東武伊勢崎線、1931（昭和6）年に京成本線が開通したきり鉄道の開発は停滞した。その間、綾瀬駅の新設や営団地下鉄との乗り入れなどはあったものの、2005（平成17）年のつくばエクスプレス開業に至るまで新規路線開拓がほとんど行われてこなかった。戦後、足立の街は近代化し、人口は戦前の3倍に達した。しかし、戦前からある路線のうち、常磐線と京成本線は区南部を掠めているに過ぎず、多くの足立区民にとっては、区を南北に縦断する東武伊勢崎線が鉄道による唯一の移動手段であった。そのため、東武伊勢崎線は朝晩の通勤ラッシュが酷く、特に東京メトロの操車場があり朝晩は始発列車のある竹ノ塚駅や、前述のターミナル駅・北千住駅では混雑が目立っている。なお、竹ノ塚駅では2005（平成17）年3月、夕方のラッシュの中で係員の遮断機操作ミスによる踏切事故が起こり、2人が死亡する事故が起こった。この事故を受けて、2012（平成24）年より足立区が事業主体となり、線路の高架化事業の起工式が執り行われた。完成は2020年度末の見込みである。

なお、つくばエクスプレス、日暮里・舎人ライナーの完成によって、竹ノ塚駅など東武伊勢崎線の利用者は減少傾向にあるが、大型マンションの開発によって西新井駅では乗降者数が年々増加している。

第2項 道路

足立区は道路面積総数が区部において1位となっている。高速道路では、首都高速道路の6号三郷線、中央環状線、川口線が走る。一般道路では、南北には国道四号線や尾久橋通り

¹⁰ JR東日本「各駅の乗車人員」<http://www.jreast.co.jp/passenger/index.html> 2012/12/10 閲覧

(放射 11 号線) や尾竹橋通り、東西には環状七号線といった主要な道路が走る。鉄道網は長年発達しなかった一方で、平坦な地形を活かし、車やバイク・自転車による交通が発展した。自動車の保有台数は東京都の市区町村で世田谷区に次いで 2 番目多く、人口 1 人当たりで見ると世田谷区を上回る。¹¹世田谷区の 0.25 台/人に対し、足立区では 0.29 台/人となる。¹²

道路による公共交通機関では、バス交通が非常に発達している。中心となっているのは東武鉄道系列の東武バスであり、区内主要駅と主要住宅地とをつないでいる。一方都営バスは、鉄道に代わる通勤手段として荒川や隅田川を超えた都心のターミナル駅と区内とを結んでいる路線が多い。西新井駅～王子駅・池袋駅東口の路線、見沼代親水公園駅(現在)～日暮里駅の路線は「日暮里・舎人ライナー」開通以前は区民の重要な通勤・通学の足であった。その他、隣接する自治体を拠点とする国際興業バスや京成バスが区内の一部を走っている。また、区の発案により、既存の交通機関の利用が困難な地域の利便性向上のため、コミュニティバス「はるかぜ」が 2000 年より順次開始されている。第 1 弾を運行する日立自動車交通をはじめ、現在全 5 事業者により 12 路線が運行されている。

ここまでイメージに依らない足立区の特徴を、地理的特徴、人口構成、産業・経済、交通の面から見てきた。都心部と比べて大規模企業が少なく中小企業が中心であり、革製品や野菜作りなどの地場産業もやや衰退傾向にある。

前述の 3 つの地区分類においては、商業地区である千住地域が大学進出などで活性化する一方で、工業地区は大規模工場の移転により縮小傾向にあり、現在は中小の工場が中心となっている。代わりに住宅中心地域が拡大し、大型マンションの建設などで整備されて来ている。産業は落ち込み気味であるが、郊外の住宅地としては、むしろ人口も増加し鉄道などの交通機関の利便性も向上しつつある土地であることがわかる。

¹¹ 関東運輸局「市区町村別自動車保有台数」平成 24 年 3 月末

¹² 上データ及び「数字で見る足立」から筆者が算出

第3章 足立区のイメージ

第3章では、まず内外からみた足立区のイメージが一体どのようなものなのか、足立区が抱かれるイメージをメディア等の分析から把握する。そして、イメージと街の実態とを比較し、イメージがどの程度当てはまっているのか、また現実と乖離しているのかを調べてみたい。

第1節 インターネットでのイメージ

我々の社会が「情報化社会」といわれて久しい。総務省の統計¹³では、平成23年末の調査でインターネットの利用率は79.1%に達した。特に、13歳～49歳までの利用率は9割を超えている。10代から40代は、今後幾度か転居を経験する可能性が高い現役世代である。そして、観光や転居などで街を選択する際にもインターネットの情報を活用するに違いない。すなわち、今日では人々の街に対するイメージの形成にとっても、インターネットの存在が無視できない。

そこで、この節ではインターネット上での足立区像を見ていきたい。今回は、人々の注目を集めるWEBサイトの中でも、イメージが目に見える形で分かり、かつ抽出が比較的容易である大手「Q&A サイト」(Yahoo!知恵袋、発言小町、教えて!goo、Sooda!などのサイトがある)の過去ログに注目する。

まず、「Q&A サイト」における「足立区」に関する投稿および寄せられた回答を分析する。「Q&A サイト」とは、例えば最大手のYahoo!知恵袋 によれば、

『疑問に思っていることを質問したり、知っている事柄についての質問に回答することで、参加している方がお互いに知恵や知識を教えあい、分かち合えるサービスです。質問したい人と回答したい人を結び、幅広く情報を共有することを目指しています。¹⁴』

つまり、ユーザーが年齢や性別を超えて自由に質問・回答をしながら、知識を共有することが出来るコミュニティサイトである。知識といっても学術的なことだけではなく、日常の疑問などを手軽に質問できることから、近年では中高生などの若者も多く利用する。

このようなQ&A サイトは国内外に数多く存在するが、今回は、「Sooda!」(2007年12月より試験運用を経て2008年9月開始・サイバーエージェント社)、「教えて!goo」(NTTレゾナント社とOkwave社の提携)、「Yahoo!知恵袋」(ヤフー社)の3つのサイトを対象とする。

ここでの調査方法・対象は以下の通りである。はじめに、上に示した3つのサイト上で「足立区」という語でワード検索し、その中で区のイメージに関する質問をピックアップした(2012年12月1日現在)。また、各質問に寄せられた回答を、イメージ形成にとってプラスかマイナスか(「回答(正)」・「回答(負)」)に分けてその数を集計した。その結果

¹³ 平成23年通信利用動向調査(平成24年5月発表)

¹⁴ Yahoo!知恵袋とは <http://help.yahoo.co.jp/help/jp/chiebukuro/chiebukuro-01.html>
2012/12/16 最終閲覧

を表にまとめたのが表2である。なお、調査対象は5年以内すなわち2007年以降にされた質問に限定する。足立区内の特定の地域や駅に関するものは除外し、「回答（正）」には、悪いイメージに対して足立区を擁護する立場を含むものとする。

表2をもとに、質問サイトへの投稿における足立区に対するイメージのなかで目立つものをいくつか分類してきたい。そして、各分類における投稿内容のうち、特徴的な物をいくつかピックアップし並べてみる。その際、『』内は原文ママ引用、()内は(サイト略称・質問番号・質問か回答か)を示す。

まず一番目を引くのが、「犯罪」や「治安が悪い」というイメージである。

マンション価格の手軽さから足立区内に引越しを予定しているものの、 『足立区は犯罪とか治安の悪さのイメージがどうしてもあり…』 (goo・6093144・質問)
『東京都足立区、葛飾区、江戸川区などは23区中、犯罪が多い区、ヤンキーなどガラの悪い人が多い、教養が低いという実情、イメージがあるのですがあなたのイメージや実際に住んでいる人の意見を聞きたいです。』 (goo・6543414・質問)
都内で居住地を探す母子に対し、 『世田谷区出身の者です。最近詳しく知りませんが、私なら治安の観点で足立区は避けます(足立区といっても広いですけど)』 (goo・4451827・回答 NO.4)

その理由としては、警視庁統計での自治体別犯罪認知件数のトップであったことなど数値によるものだけでなく、綾瀬で発生した「女子高生コンクリート詰め殺人事件」など過去の凶悪事件によるイメージや知人から聞いたイメージが挙げられる。

治安の悪さや犯罪の多さに関するイメージに次いで多く見られるのが、「低所得」、「就学援助」、「生活保護」、「貧困」などといった「経済状況が悪いイメージ」である。

『数年前から「格差」「下流」「貧困」が注目を浴びその例として東京足立区が出されています。行った事ないのですがメディアの影響を受けて足立区＝貧困というイメージがついてしまいました。ただ実際はどうなのでしょう？』 (goo・5169883・質問)
足立区は何故ガラが悪いのかという質問に対し、 『低所得者が多いからでは？生活保護率が23区でダントツトップです。』 (知恵袋・1169457741・回答)

加えて、「学力が低い」、「教育水準が低い」、「学校が荒れている」、といった教育の問題を指摘する声も見られる。

『足立区の中学校は荒れているって本当ですか？足立区は物価も安く住みやすそうなのでマイホーム購入を検討しているのですが、ただ学校の様子のみが気になっています。学力は23区内ではあまりよくはないようですが…ご存知の方、教えて下さい！』

(知恵袋・1426736464・質問)

さらに、「交通の不便さ」や「田舎っぽさ」から、住みたくないと考える人もいるようである。

『住んでいる方には申し訳ありませんが、好条件が揃っていても私は住みたくないです…イメージの違いもありますが、第一に交通の便が中野区とは比べ物になりません』

(goo・3587464・回答 No.4)

東京で住みにくい区は何区かという問いに対し、

『足立区です。交通の便が悪い地域もあるうえ、のどかというわけでもなく、なのに洗練されていない、東京の下町風情とも少し違う 新参者にはよくわからない変に田舎臭いコミュニティもあり、まあなんというか中途半端な区だと思います。地価は安いですが…』

(知恵袋・1038367190・回答)

その他、公園が多いなど住みやすさを評価する声、物価が低いこと、家賃が安いことを前向きに捉える意見もあった。

まとめると、Q&A サイトから分かる足立区のイメージは、「治安が悪い」「ガラが悪い」「教育水準が低い」「交通の便が悪い」「地価・家賃が安い」「物価が低い」といったものがあること。それらのイメージ中でも、「治安」に関するイメージが最も強い事がわかった。こうした書き込みに見られる「足立区」のイメージは、主に自治体としての足立区の犯罪率や統計・報道、噂話、区民の様子などから連想されたものようである。

しかし、実際にはインターネット上のイメージの根拠は曖昧なものである。例えば次のように、足立区民や足立区内の事業所が所有する車だけが使用するわけではない「足立ナンバー」の車に対するイメージが、足立区のイメージへと繋がった例もあった。

都内で住みたくない街として

『足立区 一度足立ナンバーの車に絡まれた事があるので、私のイメージは無法地帯です。実際北千住とかはそうとも聞きますし。』 (goo・5651407・回答 NO.5)

『足立区って教育水準低いのかな？イメージ的には足立ナンバー車にクラクション鳴らすまじ。みたいなのがあって、ヤンキー率高い？→教育水準低い疑惑→学力テスト不正発覚っていう流れなんですけど、実際は？？』(知恵袋・1112206461・質問)

実際には、足立区だけでなく、台東区、江東区、墨田区、荒川区、葛飾区、江戸川区も

足立車検場の管轄地域となっているため「足立ナンバー」の範囲に含まれる。しかしながら、足立区綾瀬に車検場があるため、こうした区におけるマナーの悪い自動車も、足立区のイメージを形成する一因となっている。

また、足立区を単体のイメージでとらえるのではなく、荒川区や台東区、葛飾区、江戸川区など周辺区（城東・城北地区）とひとくくりにして考えている人も多いということがわかった。

『北区、足立区、葛飾区、江戸川区、江東区、台東区、墨田区あたりの「皇居から見て北東地域」は「貧乏、下町、都内の田舎、メンコ、ビー玉、神社、寺、お祭り、お神輿、寅さん、両さん、場外馬券売り場、浮浪者」という感じがします』

(goo・7181772・質問)

『江戸川区・葛飾区・足立区など。とにかく城東はイメージが悪いです』

(goo・5651407・回答 NO.9)

そのイメージの分けには個人差があり、足立区・葛飾区・江戸川区の3区をセットとして考えるものや、北千住と南千住という千住地区を共有する荒川区との2区セットのもの、これらに墨田区や江東区などを加えた東部一帯をひとくくりとしたものなど様々ある。奇しくも、このグルーピングは上記の「足立ナンバー」地域とほぼ重なる。しかし、周辺の自治体を含むかどうかにかかわらず、足立区がこうしたイメージの悪さを持っている事には違いない。

他の自治体と比較しても、足立区のイメージがネット上で強い影響力を持つことがわかる。東京23区内でもこれほど自治体単位での質問が立つ例は少ない。例えば、足立区よりやや大きい人口を抱え、同じく郊外の住宅地および工業地帯としての性格を持つ大田区について「Yahoo!知恵袋」の全カテゴリでワード検索したところ、2012年12月17日現在239件の質問がヒットする。一方足立区に対しては、その2倍以上である537件の質問がヒットする。実際の治安との相関は抜きにしても、他の自治体と比較して「足立区」の治安イメージはそれほどにネットユーザーの関心を集め、彼らが「質問したくなる」ものであることが分かる。

また、こうした悪いイメージは一時的なものではなく、調査対象とした5年分の投稿において一貫してみられている。つまり、インターネットにおける足立区のイメージは、一過性のブームのようなものではなく長期間留まり続けているものであることが分かる。また、Q&Aサイトでのやり取りは、質問者が意図的に削除しない限りは半永久的に保存され、手軽に検索することが出来、誰でも閲覧することが出来る。つまり、ここでの足立区像は暫くの間変わらないのであろう。

続いて、足立区のイメージそのものではなく、イメージを持っているサイトユーザーの側に焦点をあてたい。Q&A サイトのユーザーは、サイトの性格から「質問者」と「回答者」とに分けられる。そのうち、今回見てきた投稿における「質問者」は、転居やマンション購入等で都内（足立区やその周辺）を居住地として検討している人、足立区在住者、そして居住歴不明の第三者の 3 属性に分けられる。これから転居をする質問者が、家賃相場から足立区に辿りついたもののイメージが心配であり質問をする、という動きが多い。特に一人暮らしの女性や子育て世代では、「治安」についての質問が目立ち、また治安を理由に足立区を居住地の候補として躊躇う動きも見られる。また、第三者が「足立区の治安はどうか」や「どうして治安が悪いイメージなのか」などを、直接質問するケースも少なくない。

「回答者」は、足立区在住者、居住経験者、第三者の 3 属性に分けられる。足立区在住者や在住経験者の中では、極端な偏見を伴う質問に対して、足立区を擁護する「回答」を投稿する者も少なくない。そうした回答は足立区に対するに愛着よるものであると伺わせるものが多い。『言うほど悪くない』だとか『住めば都』といったフレーズが数多く登場する。中には、住民を自称しつつ『治安が良いとは言えない』などとマイナスの発言をする者もいるが、悪評の多くが足立区民を自称しないものである。

今回の調査からは足立区のイメージの理解だけでなく、「Q&A サイト」というメディアの特徴が見えてきた。足立区を擁護する投稿をする住民が多く居たように、質問内容と回答との関係において、ネガティブな質問内容に対しては擁護する回答が目立ち、マイナスイメージに因らない質問に対しては悪口のような回答がつくというメディアとしての性格がある。例えば、前者では、

『引っ越しをするのですが、足立区を考慮に入れてる事を知ると「治安が悪いから止めた方がいい」という意見を数人から聞きました。そんなに治安が悪いんですか？どんな風に悪いのでしょうか？』
(goo・2734258)

という質問に対して、

『私は、足立区に住んで、20年近くになります。結婚して北千住に引っ越しをしてから、もう5年以上になります。子供も幼稚園に行かせておりますが、楽しく毎日通っています。仕事柄、色々な町に出歩きますが、他の町と比べて治安の悪さなど一度も感じたことはありません。逆に、公園も多いし、静かなところです。足立区程、近年変貌を遂げた町はありません。つくばエクスプレス、舎人ライナー、東京芸術大学、東京電機大学（建設中）、帝京科学大学（建設中）、東京未来大学、が進出してきました。北千住駅再開発といい、文化と教育の町にも変わってきているのです。人の流れも変わってきています。新しい流れが、今の足立区には、あると思います。治安の悪いところなど、他に行けばもっとたくさんありますよ。』
(回答 NO. 22)

といった回答が寄せられる。

また、第二の特徴は、(これは Q&A サイトだけでなく匿名性のコミュニティサイト全般に言えることでもあるが)「ネタ」或いは「釣り」などと呼ばれる愉快犯・確信犯的な内容がデタラメなものや他のユーザーを煽るような投稿が一定数存在することである。こうした投稿は「スルー¹⁵」されることが多いが、リテラシーの低いユーザーや質問分野への知識が少ないユーザーにとっては「釣り」を見極めることは難しい。自分のわからないことを質問する、というサイトの特性上、他の匿名性コミュニティサイトと比較しても、ユーザーが「釣り」投稿を的確に見極めることが困難な環境である。例えば、以下のような投稿は東京都民ならばデタラメと気づきやすいが、これから都内に転居してくる質問者や、東京都の住宅事情を知らない閲覧者は信じてしまいがちである。

『一般的に家賃は東側は高く、西側が安いです。家賃が安いのは土地が安いから公園も多いですね。都内なら中野、杉並。あと三鷹市吉祥寺などは物価が安くてすみやすいかな。ただ、家賃が安い地区は高い家賃を払えない家族、悪く言えば教育に熱心ではない家庭があって言葉使いとか態度が粗暴な子供が多かったりするので住まれる地域を良く歩き回って壁の落書きがあるとか、公園の遊具が壊されている、ごみが散乱している場所などは避けたほうがいいと思います。』(goo・2855536・回答 NO.2)

本来、一般的に都内家賃は西高東低と言われる。つまり、この投稿は東と西を意図的に入れ替え、本来東側の地名が来るはずの所に中野や杉並、吉祥寺を入れた一種のパロディである。こうした根拠のないデタラメであっても、質問者が質問自体を消すか、或いは他のユーザーの通報等により運営側が消すことがなければ基本的には削除されずネットの海に留まり続け、ユーザーの目にさらされる。上の回答は事実無根で一般的なイメージにも反しているので、事実とそぐわないと判断出来るユーザーもいるであろう。しかし、多少の誇張があれば統計やメディア・新聞報道など「根拠」を提示した「事実」と思われる投稿の影響力は高いのではないか。インターネットが発達し、居住地を選択する際の影響力も増す中で、街のイメージを改善するためには今後インターネットの動向も注視していく必要がある。

ここまでの議論をまとめると、足立区は残念ながら、治安の悪さ・犯罪率の高さといったマイナスイメージが形成されている。一部住民や元住民らによる擁護も見られるが、区外からのイメージが改善されるには至っていないのが現状であると言える。

第2節…世論調査から見るイメージ

前節では、インターネットから足立区のイメージを分析し、そのイメージが決して良いものではないということが分かった。ここでは、行政が行う世論調査やアンケートの結果から、足立区民自身が抱くイメージを探っていきたい。

足立区が例年行っている「暮らしやすさ、定住・移転意向」に関する最新平成 23 年度の

¹⁵気にしないことや、無視すること。『日本語俗語辞典』<http://zokugo-dict.com/>

世論調査¹⁶では、足立区に対し「暮らしやすい」と考えている人は全体の 84.7%にのぼり、「暮らしにくい」の 13.1%を大きく引き離れた。一方、「定住意向」のある人の割合は全体の 77.0%と大きく、「移転意向」は 8.1%に過ぎなかった。ここから、足立区民の多くが足立区を「暮らしやすい」街であり、今後も住み続けたい街であると考えていることが分かる。

しかしながら、次のようなデータもある。平成 21 年度、足立区は単年度調査として「区の魅力とイメージ」に関する世論調査を行った。¹⁷その中で、「区に対する気持ち」を尋ねる項目において、「足立区に愛着を持っている」に「そう思う」と答えた人は 67.0%であったが、「足立区に誇りを持っている」は 34.8%、「足立区を人に勧めたい」は 32.6%に留まるという結果が出た。また、同調査においては「区に対するイメージ（印象）」も調査されたが、「公園が多い街」と同率で「治安が悪い街」（31.7%）が 3 割を超え、1 位となっている。

さらに性・年代別でみると、男性では、20 代、30 代で「治安が悪い街」がそれぞれ 58.2%、58.5%と 6 割近くを占め、他の年代より高くなっている。女性では、20 代、30 代で「治安が悪い街」がそれぞれ 57.3%、51.0%と 5 割を超え、他の年代より高くなっている。これを先ほどの「定住意向」と照らし合わせてみてみると、定住意向が高くなるにつれて、「公園が多い街」、「緑の豊かな街」、「買い物の便利な街」、「交通の便利な街」は上昇しているが、「転出意向」を持つ層では、「治安が悪い街」が 67.4%と定住意向層を大きく上回っている。この結果を受けて足立区行政は、『治安への厳しい評価が転出する要因のひとつとなっていることがうかがわれる¹⁸』との認識を持ったようである。特に 20 代・30 代という若い世代では、足立区は治安が悪いイメージがあり、将来的には他の街に転出したいと考える人が大勢いると考えられる。

また、平成 21 年度は若年層（20 代～30 代）を対象とした区民意識調査が行われた。調査内容は、①若者のライフスタイル・生活実態、②足立区のイメージ、③区政との接点、メディアツール、④足立区の取り組みなどに対する意向、定住に必要な方向性 の 4 点である。調査方法は、足立区内の若者に対する郵送調査に加え、その結果と足立区を除く東京 22 区在住若年層及び足立区周辺 5 市（松戸市・柏市・越谷市・草加市・八潮市）在住若年層に対するインターネットアンケート調査との対比を行った。

この調査の中で、足立区の暮らしやすさについて尋ねる項目があり、足立区在住の若年層は「暮らしやすい」「どちらかといえば暮らしやすい」と回答した人が 85.1%に上った。一方、東京 22 区在住若年層は足立区の暮らしやすさを肯定する割合が 26.0%に過ぎず、「どちらかといえば暮らしにくい」「暮らしにくい」とする割合が 74%と、足立区内の若者とは真反対の結果となった。

¹⁶ 『数字で見る足立』 p.65

¹⁷ 『平成 21 年度（第 38 回）足立区政に関する世論調査』

¹⁸ 『平成 21 年度（第 38 回）足立区政に関する世論調査 調査結果の要約』 p.13

さらに、同調査においては足立区のイメージを東京 22 区及び周辺市の在住若年層に聞いている。その結果、東京 22 区では「治安が悪い街」が 47.0%と半数に迫るほど多く、「きたない街」の 27.0%がそれに次ぐ。周辺市においても「治安が悪い街」が 36.0%と最も多く足立区の世論調査よりも高い数字となったが、次点が「特にない」の 30.0%、「人情味のある街」の 23.0%であり、東京 22 区と比べると極端なマイナスイメージは持たれていないことが分かる。つまり、足立区を除いた東京 22 区に住む若年層は足立区に対し、治安が悪く汚い街、暮らしにくい街といった悪い印象を特に強く抱いているということである。このようなイメージは、第一節で述べたインターネット上のイメージと重なる。

また、東京 22 区の居住若年層に対し、足立区が「治安が悪い」とされる理由を尋ねたところ、「なんとなくそう言うイメージがある」と答えた割合が 56.0%であった。足立区の若年層に対しても、足立区が「治安が悪い」とされる理由を尋ねたところ、東京 22 区と同じように「なんとなくそういうイメージがある」という回答が 53.3%と最も多く、過半数に達した。またそれに次いで多いのが、「マスコミでの報道が多い」の 33.2%である。外部からの評価ではなく内部評価においても、実感によるものではなく、なんとなくのイメージが先行していることが伺える。

一方、悪いイメージとは別に「これから足立区のブランドやシンボルとして PR すべきもの」を自由回答方式で尋ねた。すると、「公園、緑、川の多さ（荒川、舎人公園）」の項目が 2 番手の「子育てしやすい環境、福祉の充実」を 2 倍以上引き離し、143 件と最も多かった。世論調査においては、自身の住む足立区を「治安が悪い街」であると 5 割以上が答えた足立区の若年層であるが、実際は「公園、緑、自然」といったものを足立区の PR すべきポイントと考えていることがわかる。ここから、彼らの足立区生活に対する愛着を感じ取れる。

それでは、なぜ足立区の住民は、大きな「愛着」を抱く街に対して「誇り」を持っていないのであろうか。その答えは、先に述べたインターネット上のイメージ分析や、東京 22 区の若年層から受けた悪評から推測が可能である。つまり、愛着はあれど他者からの評価が低いために誇りを持つことは出来ないのである。

そもそも、「誇り」とはマズロー¹⁹的に言えば他者の承認があって成立するものであり、他者の承認無くして「誇り」が生まれることは容易ではない。若年層は、他の世代と比較して最もインターネットの利用が盛んである。それは足立区においても例外ではなく、若年層区民意識調査においては、半数以上の 55.8%がインターネットを「ほぼ毎日利用する」と回答し、「週に 4～5 回程度」から「月 1～2 回程度」までと合わせると 94.5%もの若者がインターネットを利用していることが分かる²⁰。日常インターネットを利用する中で、地元である足立区に対する偏見に満ちた情報を目にすることも少なくないのではないか。ま

¹⁹ アブラハム・マズロー (Abraham Harold Maslow), 1968

²⁰ 『あだち未来図 若年層 (20 代・30 代) 区民意識調査 報告書』 p.62

た、職場や学校などの日常生活の場においても、そのようなある種の「スティグマ²¹」に基づいたからかいを受けることや自虐的な感情を抱くことを、足立区に住む多くの若者が経験しているように思う。

足立区の若者が外部から受ける評価について、足立区長・近藤やよい氏のブログ²²に次のような記述があった。これは区長が平成23年足立区成人式実行委員の若者たちと意見交換を行った際の様子をまとめた記事からの引用である。区長は新成人たちに、彼らの足立区に対する思いや印象について尋ねている。

“「同級生から『よく足立区からうちの大学に来られたね』と言われた」と一人が発言すると、「アッ、私も経験がある」との声が上がりました。”

この発言では、新成人たちの同級生（足立区出身ではない学生たち）が足立区や足立区出身者に対して、学力や所得が低いなどの印象を抱いていることが前提となっている。そして新成人たちの中には、そうしたイメージによる偏見を経験してきた者が複数いるようだ。

このように、街のイメージが悪いことは、その地域に住む人やその地域で生まれた人に対する差別へと繋がる可能性がある。とくに、進学や就職などで初めて足立区の外の世界と繋がりを持った若者にとっては、非常にショッキングな出来事として経験されている。若者たちにとって、街のイメージが悪い事が「引け目」となり、自身のアイデンティティの確立に支障を来すようなことがあればそれは不幸なことだが、この地域においては実際に起こっているのかもしれない。メディアと青年期の若者との新たな関係性の中で、街が抱える「スティグマ」を拭うことがますます求められる。次章では、その足掛かりとして、イメージに拠らない足立区の実態を明らかにしていきたい。

²¹Erving Goffman(“STIGMA:Notes on the Management of Spoiled Identity”,1963)の用語。従来は犯罪者や奴隷等への「烙印」を表すギリシア語である。詳細は第4章で触れる。

²²「はい、区長です。」2011年11月15日更新/2013年1月18日最終閲覧
(<http://www.city.adachi.tokyo.jp/hisho/ku/kucho/mainichi-20101115.html>)

第4章 イメージの実態

第3章では、インターネット上でのやり取りや区が行っている世論調査や区民意識調査を用いて足立区のイメージを分析した。結果、「治安が悪い」「学力が低い」「交通の便が悪い」「住みにくい」などのイメージがあり、それは足立区以外の東京 22 区において顕著であった。また、人々が「治安が悪い」と感じる理由では「なんとなくそういうイメージ」という回答が多く、イメージと実態との相違点はあまり見えてこなかった。そこで、第4章では、第3章で明らかになったイメージと足立区の実態とを比較し、そのギャップを探りたい。

第1節 治安

まず、インターネット及び世論調査において最もイメージが強かった足立区の治安に関して、その実態をつかみたい。足立区がこれだけ根深い「治安が悪い」イメージを持つからには、単なる偏見だけではない理由があると考えるのが妥当であろう。

まず、足立区では自治体別の刑法犯認知件数が 23 区中第1位、2位が続いたという数値的データがある。警視庁が公表する「区市別刑法犯発生件数」の統計データによると、足立区は平成 23 年の犯罪発生件数が 10,363 件と、区市別の数値の中で最も大きい値を取る²³。前年の平成 22 年は新宿区にワースト 1 を譲っていたものの、平成 18 年から 21 年までは 4 年連続でワースト 1 となっていた。この刑法犯発生件数のデータは毎年警視庁によって公表され、新聞やテレビといったメディアにより報道されている。足立区の「治安が悪い」イメージを形成してきた一つが、この統計であるともいえる。

それでは、「区市別刑法犯発生件数」をもって、治安が悪い地域と断定していいのであろうか。それは間違いである。まず、「刑法犯」と一口に言っても、その内訳は、凶悪犯、粗暴犯、窃盗犯、知能犯、風俗犯、その他の刑法犯に分けられる。「区市別刑法犯発生件数」はその全てを単純に足したものにすぎず、どのような犯罪がどれくらいの頻度で起きているのかはあまり報道されない。しかし、「犯罪数が多い地域」というだけで何だか恐ろしい地域であるかのような印象を与えてしまう。

実際には、足立区における犯罪認知件数のうち 7 割にあたる 7,884 件は窃盗であり、その半数以上である 3,978 件が乗り物盗（自転車・バイクなど）である。殺人や強盗などの凶悪犯は 67 件とそれほど多くない。第2章第4節で述べたように、足立区は鉄道網の発達が遅れてきたため、自動車や自転車などの道路交通が重要な交通手段となっている。そのため、乗り物盗の件数が多くなってしまふ（もちろん、こうした犯罪も決して許されるものではないが）。

そして、「区市別」での評価である点も、治安の良し悪しを正確に判断する指標と言えない理由である。東京都内の自治体は、その面積や人口規模がバラバラである。面積では、島嶼部を除いて最も広い奥多摩町（225.63 km²）と最も狭い国立市（8.15 km²）とでは約 28

²³ 警視庁 東京都の区市別刑法犯発生状況 「刑法犯発生件数」平成 23 年

倍の差があるし、人口では最も多い世田谷区(878,071人)と最も少ない檜原村(2,544人)とでは約345倍の差がある。²⁴したがって、「区市別」にデータを公表すれば人口・面積の大きい区市が上位にランキングすることは避けられない。

そこで、本当の足立区の治安を知るために、東京23区内で単位面積当たり、単位人口当たりの犯罪発生件数をみてる。平成22年の国勢調査における各区の人口と面積をもとに、人口1000人単位での犯罪発生件数と、面積1km²当たりの犯罪発生件数を表3にまとめた。

まず、面積で見た足立区の犯罪率は194.793件となり、良い方から10番目となる。人口で見た足立区の犯罪率は1.516件で、23区内ワースト9位となった。つまり、人口・面積どちらにおいても中盤の順位となる。足立区の犯罪は「特別多くも少なくもない・平均的だ」というのが実態である。

こうしたデータを見ると、圧倒的に犯罪が多く危険、治安が悪い地域とは言えない。むしろ、新宿区や豊島区、台東区などと比べれば比較的「治安が良い」とすら言える。しかし、発生総数ではワースト1・2であるというのは事実であり、自転車盗難などの身近な犯罪が多く「治安がいい」という程犯罪率が低いわけではないため、区の内外から「治安が悪い」イメージを持たれ続けているのであろう。

19. 刑法犯の罪種別認知状況

区分 年次	総 数	凶悪犯						粗暴犯				窃盗犯				知能犯			風俗犯			その 他の 刑法犯	
		凶 悪 犯 計	殺 人	侵 入 強 盗	非 侵 入 強 盗	放 火	ご う か ん	粗 暴 犯 計	暴 行	傷 害	その他	窃 盗 犯 計	侵 入 窃 盗	非 侵 入 窃 盗	暴 力 強 盗 (うち)	知 能 犯 計	詐 欺	横 領	その他	風 俗 犯 計	と ば く		わ い せ つ
14	15,814	76	9	8	19	30	10	484	148	228	108	12,258	1,504	10,754	4,813	356	272	10	74	92	1	91	2,548
15	15,506	108	5	26	37	25	15	577	184	240	153	11,547	1,318	10,229	5,044	464	367	15	82	65	1	64	2,745
16	14,487	80	9	15	35	14	7	569	207	227	135	10,651	1,119	9,532	4,509	558	449	14	95	103	1	102	2,526
17	13,649	57	4	20	12	11	10	480	181	211	88	9,858	886	8,972	4,422	657	569	7	81	73	3	70	2,524
18	13,419	72	11	11	27	12	11	532	257	210	65	9,961	773	9,188	4,758	544	473	12	59	69	4	65	2,241
19	12,736	55	5	17	16	8	9	477	222	198	57	9,516	824	8,692	4,480	470	399	18	53	67	2	65	2,151
20	11,422	68	10	12	30	10	6	470	216	176	78	8,448	868	7,580	4,020	449	393	13	43	90	-	90	1,897
21	11,115	34	3	9	12	3	7	406	188	167	51	8,387	604	7,783	4,313	336	281	9	46	56	2	54	1,896
22	10,378	50	6	9	23	5	7	377	163	151	63	7,774	656	7,118	3,885	340	282	16	42	78	2	76	1,759
23	10,382	67	9	8	29	11	10	413	197	153	63	7,884	523	7,361	3,978	262	221	4	37	72	-	72	1,684

資料：警視庁の統計（千住・西新井・竹の塚・綾瀬警察署）

図6 刑法犯の罪種別認知状況

²⁴「東京都の人口(推計)」平成23年1月1日現在(総務局統計部)

第2節 経済状況

続いて、インターネット上では「治安」に関するイメージに次ぐ、「低所得者が多い」、「生活保護受給世帯が多い」、「貧困地帯だ」といった経済状況の悪いイメージについて述べる。

まず、足立区の所得水準を行政資料から、足立区民の所得状況を読み取る。図7は「特別区民税・都民税申告者段階別所得金額」を表した表である。この表で「一人当りの合計所得金額」を見ると、最も多いのが「200万円以下」の90,224人で、「100万円以下」がそれに次ぐ89,310人である。所得者数の合計が360,922人であるので、足立区の所得者の約半数が年収200万円までの人だということになる。また、総所得金額を所得者数で割った区民一人当たりの所得は266,683円となり、300万円を下回る。

この数字は足立区を除く22区や多摩地区、全国と比べてどれほど低いのであろうか。内閣府の調査である「県民経済計算」によれば、東京都民一人当たりの所得平均は390.7万円となっている。足立区の平均所得はその7割にも満たない。つまり、「所得が低い地域」というイメージは、住民の所得の平均という点では正しい。

加えて、生活保護受給の実態を見てみる。図8は平成15年から24年までの足立区的生活保護世帯数・人員、保護率及び扶助額の推移を示したものである。保護世帯は平成15年以降徐々に拡大し、平成24年では「保護率」が3.80%にまで上った。この数字を足立区以外の東京22区と比較すると、図9のようになる。足立区は台東区の4.77%に次ぐワースト2である。台東区は人口が少ないため、保護世帯数や人員数では足立区が1位となる。

さらに、「就学援助率」の問題も深刻である。2006年、足立区就学援助率が全国最大の42%である、ということ朝日新聞が報じた。2006年といえば、マスメディアにおいて小泉政権への批判から「格差論ブーム」が起きていた頃である。朝日新聞の報道を受けて、『文芸春秋』（2006年4月号）が、ノンフィクション作家・佐野真一氏の「ルポ下層社会」という記事を掲載した。この中では、足立区が「下層社会の象徴」として描かれている。

平成23年5月現在では、小中学校の在籍数46,127人に対し、就学援助対象児童・生徒数が18,195人と、約39%である。全国での対象者の割合は16%となっており、2006年の数字よりも下がったものの、就学援助率が極めて高い事がわかる。

就学援助対象児童・生徒の属性には、生活保護受給者である「要保護」と、自治体が自由に支給基準を定められる「準要保護」の二種類がある。足立区では、「準用保護」の規準は生活保護受給規準の1.1倍以内としている。23区内では1.2倍と定める区が多いのに対して、厳しい基準であるが、それでも4割近い援助率になるほど、足立区の家計の状況は悪い。

平均所得や生活保護率、就学援助率を見ると、足立区が持つ「所得が低い」などの経済状態が悪いイメージは、「真実」であると言える。

21. 特別区民税・都民税申告者段階別所得金額(総合課税分)

(平成23年7.1現在)

一人当りの 合計所得金額	区分	所得者数	総所得金額 (千円)
合計		360,922	962,519,459
100万円以下		89,310	41,095,886
～200万円以下		90,224	135,127,250
～300万円以下		71,011	174,693,439
～400万円以下		43,143	148,998,152
～500万円以下		25,167	111,784,932
～600万円以下		14,895	81,460,377
～700万円以下		9,581	61,830,243
～800万円以下		5,524	41,198,480
～900万円以下		3,307	27,987,552
～1000万円以下		2,128	20,195,661
～1100万円以下		1,389	14,541,184
～1200万円以下		967	11,131,259
～1300万円以下		675	8,423,407
～1400万円以下		539	7,265,052
～1500万円以下		426	6,168,985
～1600万円以下		358	5,543,893
～1700万円以下		237	3,906,429
～1800万円以下		225	3,926,851
～1900万円以下		190	3,518,647
～2000万円以下		166	3,243,934
～2100万円以下		136	2,784,066
～2200万円以下		138	2,954,405
～2300万円以下		127	2,862,402
～2400万円以下		94	2,206,480
～2500万円以下		77	1,886,096
～2600万円以下		76	1,938,777
～2700万円以下		82	2,175,134
～2800万円以下		54	1,486,123
～2900万円以下		37	1,054,411
～3000万円以下		44	1,296,486
3000万円超		595	29,833,466

資料：区民部課税課

(注1)所得金額が1,000円以上の人を集計する。マイナス所得は集計しない。

(注2)所得金額は分離課税所得(長期・短期・株式・先物取引・分離配当)を除く。

図7 特別区民税・都民税申告者段階別所得金額

区分 年	被保護世帯数	被保護人員	保護率 (%)	扶助額 (円)
15	10,764	16,159	2.60	30,875,025,520
16	11,537	17,286	2.77	32,114,869,966
17	12,072	18,108	2.90	33,273,363,800
18	12,594	18,724	3.00	33,969,053,743
19	12,797	19,012	3.03	33,866,316,413
20	12,955	19,091	3.01	34,472,815,431
21	13,911	20,430	3.19	37,855,520,538
22	15,422	22,746	3.53	42,024,425,422
23	16,674	24,795	3.62	44,361,979,488
24	17,573	26,020	3.80	-

資料：福祉部自立支援課・千住福祉事務所

(注1)被保護世帯数・人員、保護率は各年4月中。扶助額は各年度決算額。

(注2)保護率=(被保護人員÷足立区総人口)×100。

図8 生活保護世帯数・人員数、保護率及び扶助額

<23区別>		(平成24年4月中)			
区	分	総人口	被保護世帯数	被保護人員	保護率(%)
東	京	13,195,704	214,917	282,349	2.14
23	区	8,980,768	162,808	209,628	2.33
足	立	685,106	17,573	26,020	3.80
千	代	48,218	607	677	1.40
中	央	127,907	833	963	0.75
港		208,577	1,879	2,282	1.09
新	宿	325,752	8,675	9,997	3.07
文	京	209,250	2,094	2,427	1.16
台	東	178,372	7,823	8,506	4.77
墨	田	248,157	6,324	7,981	3.22
江	東	467,236	7,087	9,467	2.03
品	川	368,476	4,540	5,446	1.48
目	黒	269,425	2,349	2,810	1.04
大	田	695,361	12,717	16,099	2.32
世	田	882,773	7,791	9,653	1.09
渋	谷	207,837	2,620	2,966	1.43
中	野	313,795	5,970	6,924	2.21
杉	並	549,895	6,303	7,450	1.35
豊	島	286,899	6,148	7,060	2.46
北		333,476	7,756	9,656	2.90
荒	川	204,575	5,215	6,417	3.14
板	橋	535,726	13,280	18,351	3.43
練	馬	716,643	11,925	16,468	2.30
葛	飾	441,195	9,300	12,496	2.83
江	戸	676,117	13,999	19,512	2.89

(注1) 総人口は「東京都人口(推計)」（東京都総務局統計部）による。
(注2) 被保護世帯数、被保護人員については停止中のものを含む。

図 9 生活保護世帯数・人員数及び保護率

第3節 教育

足立区は「治安」、「所得」に関するイメージに加えて、「学力が低い」や「教育水準が低い」、「公立学校が荒れている」などというイメージを持たれている。そこで、足立区の教育の現状を調べてみた。

足立区には平成24年5月現在71の公立小学校と、37の公立中学校がある。足立区教育委員会は平成14(2002)年度より公立小中学校の学校選択制度を導入している。保護者は区内の全小中学校から自由に学校を選択し、入学希望を出すことが出来るようになっている。こうした学校選択の自由化の背景には、学校間の競争によって教育の質が向上するのではないかという保護者や首長などの期待がある。

そうした新自由主義的な教育行政において、学校選択の材料として独自に『足立区学力向上に関する総合調査』を行い、結果を学校ごとに公表している。

この制度は、以前はさらに競争主義的なものであった。各学校・学年ごとに結果を報告し、テスト成績に応じた予算の傾斜配分を行っていた。しかし2006年、足立区内の鹿浜小学校において、校長らがテスト中に解答を指さして教えたり、情緒障害のある児童3人の答案を無断で採点対象から外したりという不正が起こった。翌平成19(2007)年には、こうした不正を受けて予算の傾斜配分を中止とした。

この事件や、その他の「一斉学力テスト」で生じる問題から、教育関係者の間では、学校ごと・自治体ごとなどのデータは生徒の自尊心を傷つけ格差形成を助長するものだとし

て反対する意見がより一層高まっている。

しかし、足立区はこうした問題を経た現在も、学校ごと・教科ごとの詳細な点数公表にこだわり続けている。なぜなら、地域・社会に情報を公開し、地域の人々と共に運営する「開かれた学校」作りを目指しているからである。各学校は「開かれた学校づくり協議会」などを通して保護者や地域と連携しながら、特色ある学校づくりを進めている。極端な市場原理導入によって、不正という残念な出来事も起こったが、足立区が教育に力を入れているのだと分かる。

それでは、「学力が低い」イメージはどこから来るのか。それは平成 16（2004）年度に東京都都内の小中学校を対象として行った「学力テスト」²⁵に関する報道に起因する。この調査において足立区が 23 区最下位の結果となったことが、マスコミなどに大々的に取り上げられたのである。そして、足立区では平成 15 年と 16 年には 23 区中 23 位、17 年と 18 年には 22 位と、区部においてワースト 1・2 を連続して取っている。平成 18（2006）年といえば、前節で述べた「ルポ下層社会」の存在もある。そこでは学力と親と所得との関係が指摘され、学力テストの結果が社会全体の貧困と結びつけられている。

足立区の学力に関する報道は平成 19（2007）年以降はほとんどなされていない。なぜなら、平成 18 年まで東京都教育委員会は区市町村別に各設問の回答率まで公開していたが、それ以降回答率の公表を中止しているからである。現在では、区市町村別の結果公表は、数字が曖昧な「棒グラフ」を教科ごとに示すものだけとなっている。

そのため、手掛かりの少ないグラフを参考にするしか方法が無いが、足立区の学力の現状をグラフから判断してみたい。平成 24 年度の学力調査²⁶におけるグラフを見ると、小学校段階においては殆ど学力に差は見られない。中学校段階になると「数学」及び「英語」といった教科で東京都の平均的な点数分布よりもやや低いという傾向が見られる。しかし、この差異はそれほど大きくなく、他の区市町村と比べて大きく引き離されているわけではない。数値の公開が無い以上、大きく報道されることもないであろう。

しかしながら、学力に関する報道が数年されていないにもかかわらず、インターネットや世論調査を見ると、まだ足立区の教育に対する不安や悪いイメージは根強いと感じられる。足立区の学力が低いことは相対的には間違いではないが、実態を超えた強いマイナスイメージが定着していることも伺える。

第 4 節 マイナスイメージによる問題点

ここまで、足立区のイメージとその実態の相違点を見てきた。「治安が悪い」イメージや「学力が低い」イメージに関しては嘘ではないものの事実を超えたイメージが定着しており、「所得が低い」イメージは事実そのものであった。こうした悪いイメージが、地域で生活をする住民にとっては「誇り」の喪失へ繋がるということは第 3 章で少々述べた。それ

²⁵ 東京都教育委員会 平成 18 年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査報告書」

²⁶ 東京都教育委員会 平成 24 年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」

では、悪いイメージは地域社会にとってはどのような影響を及ぼすのであろうか。

第一に考えられる影響は、区外からの転入や住宅需要の低迷である。イメージの悪い街は、それだけで「住みたくない」と考える人が多いと考えられるからである。

第3章で述べた東京22区居住若年層へのアンケートにおいて、足立区は「暮らしにくい」街だという意見が大きかったが、理由もなく「暮らしにくい」街に住みたいと思う人はいないであろう。「なんとなくパッとしない」などというイメージならばともかく、足立区が持つイメージは明確な「治安が悪い」イメージであるから、それだけで転居地の候補から除外されてしまう。足立区も再開発等で高級マンションや建売の戸建ても増加し、地区ごとに地域特色がある。しかし、イメージから判断され一度も訪れられなければ、そのような特色も理解されはしない。

人文地理学の分野では、2004年若林芳樹らによって『メディア報道と地域イメージからみた犯罪多発地区の空間分析』という研究が行われた。

『大学生を対象にして、都道府県および東京23区に対する犯罪危険度の主観的評価、および犯罪情報の入手経路についてアンケート調査を行った。その結果、実際の犯罪発生率と犯罪危険度の主観的評価は、ある程度の相関関係はみられるものの、地域イメージによるバイアスを受けて、一定の乖離が存在することが判明した。また、居住地周辺の地域での犯罪情報は主に口コミで入手しているのに対し、他の地域については主にマスコミを通じて得られていることが確認され、警視庁等が公開している犯罪発生マップの認知率はきわめて低いことが明らかになった。²⁷⁾

つまり、実態を超えた「治安が悪い」イメージはバイアスとなって足立区外の人々の主観的評価を下げている。また、居住地以外の地域については、「犯罪発生マップ」などの客観的な治安情報を主体的に入手することはまれで、マスコミなどを通じて情報を得る。第4章第1節で述べたように、マスコミや警視庁が公表するデータは確率として治安を表した面積・人口別のデータではなく、面積や人口が多い足立区が自動的に上位にランクインしてしまう「区市別犯罪発生件数」であるから、足立区外の人々が持つ足立区の治安へのイメージは「区市別犯罪発生件数」にはかならない。以上が人文地理学的に見た足立区の治安と外部からのイメージの関係性である。

同様の理論が犯罪以外の分野でも当てはまるならば、教育に関するイメージは平成16年度の「学力最下位報道」であるし、所得に関するイメージは「就学援助全国1位」や「生活保護受給者数1位」そのものである。可能な限りリスクを回避したい、という考えは人間ならば誰も持って然るべきである。

さらに、イメージが悪いことで地価が上がらず、高所得者も流入しないことから、地域経済が衰退する可能性も考えられる。現在、足立区の平均地価は296,682円/㎡である。これは、東京都の平均である798,137円/㎡には遠く及ばず、その差は501,455円にも上る²⁸⁾。

²⁷⁾ <https://kaken.nii.ac.jp/d/p/16652059/2004/3/ja.ja.html>

²⁸⁾ 地価・人口統計局

そして、足立区は家賃相場も低い。中でも、区営住宅や都営住宅、公団住宅といった低家賃の集合住宅が多数ある。その戸数は合計 47,155 戸である。仮に全ての部屋が埋まった場合、足立区に暮らすの世帯の 15% 近くをカバーする量である。こうした住宅は所得などの制限を伴うため、おのずと低所得者が足立区に集まる構図となっている。個人の所得と消費活動や納める区民税は比例するため、区内の所得水準が低くなることで街全体の活気が失われていく可能性がある。

第二に、住民が「誇り」を失い、まちづくりに対する関心を低下させたり、足立区からの転出意向を固めたりといった方向へと繋がる懸念がある。

アメリカのマリアミ州では、メディアが作りだした街へのプラスイメージが住民の「誇り」へとつながり、その結果まちづくりへの住民参加が広がったという研究がある。²⁹作られたイメージではありながら、住民が「自分達の街は良い街かもしれない」と認識を改めることにより、街を良い状態に保とうとする動きが自然発生的に生まれたのである。

裏を返せば、街への「誇り」がまちづくり活動や様々な住民活動など地域参加の参加動機になる、とすることが出来る。足立区では、町会・自治会の加盟率が大幅に減少している。平成 10 年に 71.07% だったものが、平成 24 年では 57.13% まで下落している³⁰。町会・自治会の問題は街のイメージとの関連抜きに全国で進行しているが、それでも地域活動に参加することは地域への誇りや愛着の問題と深い関係にあると思う。

そして、「誇り」を失った住民は、地域への関心を失うだけでなく、やがては出身地のイメージに恥ずかしさを感じて転出意向を持つであろう。私は、街のイメージというのはある種の「スティグマ」であると考えている。

前章でも挙げたゴッフマン(1963)によれば、スティグマは『対他的な社会的アイデンティティと即自的な社会的アイデンティティの間の特殊な乖離を構成している³¹』。これを、街のイメージ論に当てはめると、特定の街が抱えるスティグマとは、「外部から見たイメージと内部から見たイメージの乖離」だと定義することが出来る。足立区においては、住民などによる内部からのイメージ（ゴッフマン的には「即自的な社会的アイデンティティ」）とメディア等による外部からのイメージ（同「対他的な社会的アイデンティティ」）との乖離が進んでいる。ゴッフマンは、スティグマによって個人は面目を失ったり、気まずさを抱えたりすると言っている。そうした感情は、住民が街に失望し、転出意向を持つことに繋がる。

また、ここでいう「住民」とは世論調査に意見が繁栄される「有権者」だけではない。足立区には数多くの子ども達が居住している。彼らに対する影響も深刻である。近藤やよい区長のブログ³²には、

『足立区の小中学生はスポーツや音楽などで大活躍しているにもかかわらず、インター

²⁹ Morgan and Pritchard, 1998

³⁰ 『数字で読む足立』

³¹ アーヴィング・ゴッフマン『スティグマの社会学』石黒猛訳, p.16

³² <http://www.city.adachi.tokyo.jp/hisho/ku/kucho/mainichi-20121009.html>

ネットで足立区について調べてみると、あまりよい情報が見当たらない。すごく悔しい。だから自分たちがもっと頑張らないといけない』

と話す小中学生の発言が取り上げられている。

子どもや 10 代の若者は、「格差論ブーム」の頃の執拗なネガティブ報道も経験してなければ、足立区外に住む人と会話する機会も少ないであろう。若い世代はインターネット利用率も高いのだから、足立区に対する諸々の悪いイメージは、インターネットを通して得ていると考えられる。罪のない子どもや若者が、自分たちの街に対しての「スティグマ」に気付き、「誇り」ではなくむしろ劣等感や、偏見を持たれる悲しさや悔しさを感じてしまう、もしくは既に感じている危険がある。これはまさに、ゴッフマンのいう二つのアイデンティティの乖離が作用しているためである。そして、足立区の「スティグマ」をコンプレックスに感じた若者たちが、就職などを機に次々に区外に転出してしまうのではないかと思わずにはいられない。

第5章 足立区の歴史

第3章・第4章では、足立区のイメージの様子を述べ、そのイメージと現実の足立区との相違点を調べた。そして、インターネットや雑誌などのメディアによって、イメージが地域に大きな影響を及ぼしかねないという危険性に触れた。第5章では、足立区の歴史をさかのぼることによって、足立区が何故「低所得の地域」となったのか、その理由を探っていきたい。

第1節 江戸時代までの足立と東京への編入

原始時代において、現在の足立区の大部分が古代東京湾の底であった。現在、区北部に位置する伊興地区周辺では古墳や貝塚跡が見つかり、「白旗塚古墳公園」や「伊興遺跡公園」として観光地化されている。

「足立」の名が初めて歴史上に登場するのは、平城京二条大路から発見された木簡で、天平七年（735年）の物である。『続日本紀』（797年）の中にも、「武蔵国足立郡」という記述がある。そこでは地名の由来が記され、湿地に群生する葦（あし）から来ているとのことである。遺跡や歴史書などから、開発の古さがうかがえるが、葦の生える様子からは集落や農地などはあまり多くなかったということが推測される。826年の西新井大師建立によって西新井周辺が門前町として栄えた。また、伊興地区が奥州へ向かう道の途中にあり、源氏ゆかりの土地であることが記されている。なお、当時の足立郡は、北足立（現在の埼玉県北足立）と南足立（現在の足立区）とを合わせた地域である。

江戸時代には、千住が江戸四宿の1つに数えられ、水運の便も手伝い人・物・カネの行きかう街として栄えた。当時は農業も盛んで、「千寿葱」と呼ばれるネギの名産地であった（現在では区内にネギ農家はなく、埼玉県で栽培され千住の市場で専売されるものを千寿葱と呼んでいる）。宿場町・千住と門前町・西新井以外の地域でも、綾瀬川の改修や見沼代用水の整備によって、湿地帯の農地化が進んだ。

明治2年、東京遷都が行われると、「南足立郡」は同4年まで置かれた小菅県を経て東京府に編入された。その後、同22年東京市が成立し1町8カ村（千住町、西新井村、梅島村、江北村、花畑村、淵江村、東淵江村、綾瀬村、舎人村）が置かれ、24年に淵江村から伊興村が独立し、1町9カ村となった。昭和7年、市郡合併により東京市足立区が誕生した。昭和18年の東京都政実施により東京都足立区となり、昭和22年地方自治法公布を経て特別区としての足立区が誕生、現在に至る。

第2節 明治～関東大震災

明治・大正時代には、鉄道や荒川放水路などのインフラ整備が進んだ。1896（明治29）年、日本鉄道会社土浦線（田端－土浦間）が開業され、北千住駅が設置された。続いて、東武鉄道が1899（明治32）年に北千住－久喜間、1902（明治35）年に北千住－吾妻橋間を開業した。北千住駅は千住地区の中心であり足立区と都心をつなぐターミナル駅として

の機能を持つこととなった。明治時代の後半は、荒川（現在の隅田川）の水運を利用した工場などの立地がすすんだ。明治20年に出された「市区改正計画」と「魚獣化製場取締規制」によって、旧東京市内から革製品の工場が数多く千住地区に移転した。その際、千住の町民たちは大反対した。³³しかし、革製品が足立区の名産として今も残るのはこうした歴史的背景がある。

また、1912（明治45）年には市電が三ノ輪橋千住大橋間で開業し、1928（昭和3）年には千住四丁目まで延長された。市電（都電）は戦前の千住地区を支える交通としての役割を果たしたが、1968（昭和43）年に廃止される。都営線は戦後、足立区の交通の発展が長年妨げられてきた理由の一つでもある。

また、明治後期の豪雨による河川の氾濫によって、前述の荒川放水路の建設がはじまり、1930（昭和5）年に完成した。

足立区の姿を大きく変えた出来事は、1923年の関東大震災である。正確に言えば、大震災後の復興段階において影響を受けた。

地震に伴う火災により、東京市域の約45%にあたる約3,500haが焼失し、特に下町である浅草区・本所区・神田区は約95%が焼失した。丸の内エリアと山の手（本郷、四谷、麻布、赤坂）の大部分は無事であり、被害の大きかった下町エリアを中心に道路や公園の整備が行われた。

また、鉄道網の整備も行われ、1925年東京～上野間の高架線が開通し、同時期に西武新宿線などの私鉄が開通、「学園都市構想」によって国立や目黒、世田谷などが箱根土地や私鉄会社などにより新たに開発された。やがて、渋谷や新宿、池袋といったターミナル駅が発展し、新橋や神田など旧東京市にあった駅の利用者数を上回るようになる。ここから、東京都の「西高東低」という格差が生まれたと考えられる。「田園調布」や「青葉台」といった郊外には高級住宅が多く作られ、復興計画の重点エリアである下町地域に多くのアパートメントが作られた。

一方、住宅を買う余裕が無い失業者は、工場が集中する荒川区や足立区千住地区の長屋へと移り住むこととなった。また、家を失った人々の住宅需要を賄うため、足立区内には多くの団地が作られた。

関東大震災（或いは戦災）によって破壊された寺院が、浅草から数多く「伊興寺町」に移転された。代表的な物では、安藤広重の墓所として有名な東岳寺や綱吉の生母桂昌院の墓がある法受寺が昭和の前半に足立区内に移って来ている。そもそも、浅草の寺院の役目は江戸の鬼門（北東）を護ることにあった。寺町だけでなく、工場やそこで働く労働者向けの住宅などが、都市「東京」の拡大によって、従来浅草や三河島（現在の台東区や荒川区）から北東の足立区へと徐々に拡大していった。

³³ 『荒川の部落史 まち・くらし・しごと』 p.73-78

第3節 戦争から高度経済成長期へ

明治期の都市計画の副産物として、革産業のまちから始まった足立区の工業は、震災によって新たに移り住んだ層を取り込み、金属や機械工業といった革製品以外の産業にも拡大し発展していった。しかし、東京を次なる悲劇が襲った。太平洋戦争である。東京下町の多くが焼け野原となり、足立区では人口の半分が被災した。

しかし、足立区は工業地帯としての機能を取り戻し、復興を遂げていった。その際力を発揮したのが、第2章で述べた「金の卵」達である。彼らが住む為の住宅や団地も増え、足立区の人口は東京オリンピックの頃には戦前の2倍以上となり、足立区は工業労働者の街として発展した。当時は日本の第二次産業が上向いていた時代であり、労働者の多くが一定の収入を得て、裕福ではないにしろそれなりの生活を営んでいた。

第4節 昭和後期～平成の足立区

戦前から、足立区の主要産業は工業などの第二次産業であった。大手企業の工場から小さな町工場までが、足立区の経済を支えていた。しかし、「工場等制限法」の制定やバブル経済が進行する中で、大手企業の間では足立区の工場を閉鎖し、より広い生産拠点を求めて北関東や千葉県、遠くは海外などに工場を移転する動きが相次いだ。1986年に操業停止した東京製鉄の千住工場がその例である。

そして、バブルの崩壊後区内の工場や中小企業の経営が徐々に悪化していった。2001年にリーガル東京本社工場が操業停止し、2002年には日清紡が西新井にあった東京工場の操業停止を決断するなど大手の工場も足立区を去って行った。その結果足立区内では多くの失業者が生まれ、所得水準も低下した。

また、バブル経済が始まるころ、足立区内で多くの日本人に記憶に残る凶悪事件が発生した。足立区綾瀬で発生した「女子高生コンクリート詰め殺人事件」である。

『1988年11月25日、埼玉県三郷市の路上をアルバイト帰りの県立高校3年のX子さん(17歳)が自転車で走っていた。そこへバイクに乗った少年A(当時18歳)とC(当時16歳)の2人の少年が近づき、CがX子さんを蹴って側溝に転倒させた。そこへAが近づいていき、X子さんをホテルに連れこみ暴行した。X子さんはこの後、41日にわたって足立区綾瀬のCの家に監禁され、壮絶な暴力を浴びた。翌年1月4日、リンチによりX子さんが死亡すると、少年らはコンクリート詰めにして江東区の海浜公園に投棄した。』

この事件は、日本犯罪史上最も卑劣で残虐な少年犯罪とされ、テレビや新聞、雑誌などのメディアで連日取り立たされた。この頃、全国的に「ヤンキー」などの非行少年が社会問題となっていたが、この事件は非常に衝撃的であり、足立区・特に綾瀬といえば「ヤンキー」や「非行少年」というイメージが全国区となった。

一方、衰退した工場や農地などの跡地は、次々に宅地となっていった。足立区をベッドタウンとし、日比谷線や千代田線を使って都心に通勤するホワイトカラー層も増えていっ

た。また、高度成長期を支えた労働者とその配偶者も高齢化していった。そのため、近年では足立区は工業中心の街から、「住」の街へと変化している。

「コンクリート事件」以降足立区が再び注目されるようになったのは、2006年の「格差論ブーム」の頃である。この頃は、それ以前よりも格段にインターネットが発達していた。インターネット上で「格差論」が論じられる際には、「コンクリート事件」の名前や事件内容が投稿されることが多かった。

今回ヒアリングにご協力頂いた足立区危機管理課のAさんも、『治安に対する大げさなイメージは、かつて発生した凶悪事件（女子高生コンクリート詰め殺人事件を差していると思われる）によって生まれたものが、2006年前後のマスコミによる攻撃によって確固たるものとなってしまった』と話していた。

現在でもインターネット上では事件に関する数多くの「まとめサイト³⁴」や「まとめコピペ³⁵」が存在し、多くのネットユーザーが匿名掲示板などにスレッド立てや投稿を行っている。被害者やその家族は勿論、日本中の人々にとってこの事件を忘れずに語り継ぐ事は重要である。

しかし、この事件を語る際には、常に足立区や綾瀬という名がついて回る。そして、投稿を行っているユーザーの多くが、事件被害者の思いを語り継ぎたいのではなく単なる愉快犯である。インターネットが発達する以前は、凶悪事件が起きてもいずれ風化してしまい、事件の関係者や犯罪史などを扱う有識者など、一部の人間のみが記憶するにすぎなかった。しかし、近年この新たなツールによって、凶悪事件の風化が押さえられているという側面がある。足立区の「治安が悪い」イメージのルーツはこの事件にあるのだろう。

ここまで、足立区の歴史を見ることで、現在のイメージが形成された背景を述べてきた。まとめると、足立区は震災や戦災からの復興過程で工業地帯を形成したが、昭和後期の経済圏の拡大や平成の不況を受けた。近年では宅地として再開発がなされているが、経済的には「所得が低い」地域を形成している。その中で凶悪事件とメディアの報道をきっかけとして、「治安の悪い」イメージが定着してしまったと考えられる。

第5節 変わる足立区

不幸にも、「下層社会の象徴」とされてきた足立区であるが、近年、大きな変貌を遂げている。その変化の一つは、第2章で述べたつくばエクスプレスや日暮里・舎人ライナーといった新交通の発展である。都心への交通アクセスが改善されたことで、「職住一体」の自営業者や工場労働者が中心の街から、都心に通勤するホワイトカラー層が多く住む「職住分離」の街へと、足立区は変わり始めている。

そして、もう一つの重要な変化が大学の進出である。長い間、足立区内には大学や短大

³⁴ 事件、話題などの情報、作品を収集・編集したウェブサイト。wikipedia, 2012/12/18

³⁵ 電子掲示板などにおいて、コピペという言葉が、頻繁にコピー・アンド・ペーストされる特定の文章（いわゆるテンプレ）それ自体を指すこともある wikipedia, 2012/12/18

などの高等教育機関が一つも無い状態が続いた。平成 5 年に放送大学の学習センターが作られたが、学生が集うようなキャンパスは作られなかった。しかし、近年の交通インフラの整備や、近藤区長が進める「イメージアップ」政策と並行し、大学の立地が急ピッチに進み始めた。自治体の誘致合戦の末、平成 18 年に東京芸術大学千住キャンパス、19 年には東京未来大学が千住地区に開校した。区政 80 周年の平成 24 年には東京電機大学が神田からキャンパスを移した。計 5 大学が開学したことで、1 万人の学生や教職員が千住地区に集まることとなった。

大学の開学は街の賑わいを生み出すだけではない。区は 5 大学との連携を進め、教育や産業振興、治安再生事業などで大学の力を活かす取り組みを始めた。中でも、教育においては、幼稚園・保育園から高校まで、区内の子どもたちにとって「大学が身近にある」環境を作ることの意義は大きいだろう。

近藤区長は、『子どもたちが自分の人生を切り開いていく基本は教育、つまり自分で学ぶということだ。大学誘致では足立区の子どもたちに自ら学ぶ土壌を与えたいという思いが強い。「大学の校舎を見たことがない」「大学生ってどんな人」といった一部の子どもたちに「将来大学に行って目的を持って学ぼう」と自信を持って言えるきっかけになれば、と考えている。』と語る。³⁶

大学連携によるまちづくりへの協力や教育の質向上が期待されるだけでなく、大学が子どもたちにとって身近な存在にあることが学習意欲の向上へと繋がる。また、千住に「大学のあるまち」としての顔が出来ることで、対外的な街のイメージの変質へと繋がる。こうした流れが、足立区全体のイメージ改善の第一歩となることが期待される。

³⁶ 『日経グローバル 自治体維新 143』2010.3.1, 日本経済新聞

第6章 イメージ改善のための取り組み

第5章では、足立区の社会構造の変化と、近年の新たな動きについて述べた。第6章では、そのような悪いイメージを改善するために行われている足立区行政の取り組みを紹介する。その際、全国の自治体やアメリカの例を参考にしながら、足立区の取り組みに対する評価を下したい。

第1節 取り組みの概要

ここでは、足立区のイメージ改善の取り組みである「シティプロモーション」施策の概要を述べたい。一連の施策の始まりは、平成17年に定められた「足立区基本構想」（平成17年度から28年度までの12年間を対象とする）である。その基本理念は「協働で築く力強い足立区の実現」である。この構想によって足立区は、「区民一人ひとりの努力を出発点として、各自が得意分野で智恵と力を出し合い、足立区民たることに誇りをもてる未来を築くことをめざす」としている。

しかしこの構想の最中に、「足立区民たることに誇りを」持つことが難しくなるような出来事が起こった。第5章などで述べた、平成18（2006）年の就学援助率報道や「ルポ下層社会」を契機とした「足立区叩き」の風潮である。こうした区民の誇りへの危機感から、平成19（2007）年、現区長である近藤やよいが都議会議員を任期途中で辞職し足立区長選に立候補、当選を果たした。

近藤やよい区長は就任した平成19年、区政において最も重視する目標を定めた。足立区民が、他の地域に住む人の抱くイメージにより悪い評価を受け、その結果自分の区に対して愛着が持てず、自虐的になってしまうという現状があることを認め、そうした「負のスパイラル」を断ち切るため、「足立区のイメージを向上させなければならない」という目標を掲げたのである。区長の提案により、足立区行政による盛大な計画が開始された。街のイメージを向上させるという大胆な施策である。

第2節 「ビューティフル・ウィンドウズ」政策

足立区のイメージを向上するために真っ先に取り組みされたのが「治安の悪いイメージ」へのアプローチである。近藤区長は警視庁出身であり、防犯や犯罪心理・警察組織などに関する知識が豊富であったことがスピーディーな対応に繋がった。「ビューティフル・ウィンドウズ」と名付けられた施策が、就任翌年の平成20年に開始された。

最も根強い「治安が悪い」イメージを改善するための柱である「ビューティフル・ウィンドウズ」運動。これは「割れ窓理論」という犯罪心理学の理論を逆説的に利用した取り組みであり、ニューヨーク市での成功例を元に、足立区の治安イメージの現状にあわせてアレンジしたものである。

区HPによると、

『アメリカ合衆国ニューヨーク市は、軽微な犯罪を取り締まることで凶悪犯罪を抑止し、治安を回復させました。これは、割れた窓ガラスを放置するような軽微なことから地域全体が荒廃し、犯罪も増えてしまうという「割れ窓理論（ブローケン・ウインドウズ）」による対策です。これを参考に、「美しいまち」を印象付けることで犯罪を抑止しようという区独自の運動が「ビューティフル・ウインドウズ』』である。

足立区が行う「ビューティフル・ウインドウズ」の実践を見ていく前提として、まず第1項ではその元となった「割れ窓理論」についての概要を述べたい。また、世界的に「成功事例」とみなされ、日本においても足立区をはじめ様々な自治体や警察などが注目する、ニューヨーク市での取り組みはどのようなものであったのか、第2項で述べたい。そのような先行研究を踏まえて、第3項では足立区における治安向上のための実践について、その過程及び結果を調査していく。

第1項 割れ窓理論の概要

1982年、ケリングとウィルソン（当時ハーバード大学教授）によって「割れ窓（ブローケン・ウインドウズ）」論文が発表された。前年公表されたニューアーク徒歩パトロール実験の結果や各自の研究などにより、割れた窓ガラスという「たとえ」を用いて、無秩序と犯罪の関連性を表現した論文である。「もしある建物の一つの窓が割られ、『修理されないままに放置されれば』、残りの窓は全部すぐに割られてしまうだろう。割れたまま放置された一枚の窓は、誰もケアしていないこと、窓を割ることに何のコストも伴わないことの象徴である」。³⁷

割れ窓理論の元となったニュージャージー州ニューアークにおける実験とは、警察資源の多くを従来の自動車によるパトロールではなく徒歩によるパトロールに費やすというものである。徒歩によるパトロールによって重大犯罪数自体の減少以上に、市民の地域への安心感が増し「犯罪が減少した」と信じる市民多かった、という結果が出た。徒歩によるパトロールにおいて警察官は、コミュニティの住民と顔なじみになり、市民と警察とが秩序の維持に関して協力する姿がみられた。警察は犯罪だけでなく無秩序（犯罪までは行かない迷惑行為）の管理と監視を行っており、無秩序の減少が市民の犯罪不安の減少に繋がったのである。

ケリングはこのニューアーク実験を踏まえ、無秩序と犯罪不安との因果関係を論じた。しかし、無秩序と重大犯罪との関係については、さらなる経験的検証を待つ仮説に留まっていた。そして、この仮説に対する検証は10年間行われず、それどころか人権保護家からは「無秩序を統制する取り組みは、何の『犯罪』を行っていないのに個人の自由に対する

³⁷ 割れ窓理論については、1996年 G.L.ケリングと C.M.コールズ『割れ窓理論による犯罪防止—コミュニティの安全をどう確保するか—』（2004年小宮信夫訳、文化書房博文社）に拠る。

憲法的保護を侵害する点で許し難い」という批判を受けることになった。

しかし1990年、スコーガンらによってニューアークの実験とヒューストンでの同様の実験などを統合する形で『無秩序と衰退、アメリカの近隣地域における犯罪と崩壊の連鎖』という論文が出版された。スコーガンは次の三つの重要な知見を得た。

第一に、「何が無秩序であるか」という定義はエスニシティや階級などの属性を超えて合意が得られるということである。この知見により、個人の自由とコミュニティの秩序とが両立し得ることが立証でき、治安維持活動への批判を乗り越えることに成功した。第二に、ケリングの課題であった無秩序と犯罪との直接的関連性を発見したことである。犯罪率の高い地域において、他のいかなる地域特性（人種構成、貧困、住宅市場）よりも無秩序の方が犯罪と強い関連をしめしていた。最後に、無秩序が直接的にも犯罪の前兆としてもコミュニティの崩壊に繋がるということである。無秩序はそれ自体、また犯罪の増加を通じ住宅市場の安定性を掘り崩す。不安を感じた住民は転出し、不動産価値は暴落し、商店街は顧客が離れ、コミュニティの衰退に繋がってしまうのである。スコーガンの説によって、ケリングの「割れ窓理論」が単なる仮説ではなく経験的事実であるとみなせるようになった。

ここまで、割れ窓理論の内容と成立過程を見てきた。この理論に目を付け治安の回復を目指し、足立区の「ビューティフル・ウィンドウズ」の参考となった都市がニューヨークである。次項では、ニューヨークにおける治安回復の取り組みについてみていきたい。

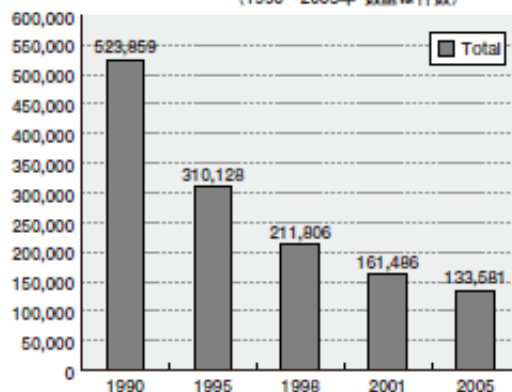
第2項 ニューヨークの事例

1994年、ニューヨーク市長にルドルフ・ジュリアーニ（2001年まで在任）が就任した。それ以前から、この街では無秩序を是正し治安を回復する取り組みがいくつか成されていた。例えば、1970年代後半の「クロスロード作戦」や1980年代のニューヨーク市地下鉄における落書きやホームレス問題などの無秩序に対する取り組みである。こうした取り組みの多くが失敗に終わったが、ニューヨーク市警察の風土を徐々に変えていったという点で功績は大きい。発生した事件の捜査や事後対応にのみ労力を割く姿勢から、まちの秩序を維持し犯罪を予防する姿勢への転換である。

ジュリアーニは1993年の市長選において、犯罪との強い対決姿勢を示し、ニューヨーク市には犯罪問題に対処する特別な能力があると主張した。彼の市政では、ブラットンという人物が警察本部長に任命された。ブラットンは1990年、交通部長として地下鉄の秩序回復に取り組み、無賃乗車や落書きなどを減少させた定評ある人物であった。また、割れ窓理論を提唱したケリング博士を顧問として招き、同理論を用いた「不寛容（ゼロ・トレランス）」と呼ばれる政策を展開した。警察官5000人を動員し、徹底した徒歩によるパトロールを行い、落書きや未成年者の飲酒といった、「無秩序」の取り締まりを行った。また同時にニューヨーク迷惑防止条例の積極的な運用も図った。その結果、ジュリアーニの市長就任以降でニューヨークの犯罪認知件数は激減した。同市の犯罪件数の推移を示したのが

次の図である。1990年以降、犯罪率が大きく減少している事が分かる。

表1：ニューヨーク市における犯罪発生率の推移
(1990～2005年 数値は件数)



38

ジュリアーニ市政における「割れ窓」の取り組みには批判も多いものの、こうした明確な数値的結果を持つ。この取り組み結果によって割れ窓理論は世界的な注目を集め、日本においては2001年北海道札幌札幌中央署がいち早く導入した。「割れ窓を違反駐車に置き換えて、すすきの環境浄化総合対策として犯罪対策を行った。具体的には北海道内最大の歓楽街のすすきので駐車違反を徹底的に取り締まる事で路上駐車が対策前に比べて3分の1以下に減少、併せて地域ボランティアとの協力による街頭パトロールなどの強化により2年間で犯罪を15%減少させることができた」。³⁹近年、足立区以外の自治体では京都府などが導入している他、ビジネスの場においても割れ窓理論が応用されている。

第3項 足立区における実践

前項までの議論ではニューヨーク市を中心に「割れ窓理論」の実践に触れたが、ここでは足立区における治安向上のための取り組みについて述べたい。

足立区は平成21年12月21日、警視庁と「足立区における治安再生事業の推進に関する覚書」を結んだ。他の区でも各警察署と連携する例はみられるが、警視庁とこうした覚書を結んだ例は足立区が唯一である。警視庁から足立区危機管理課に職員が出向するほか、区内の犯罪発生状況などの情報を逐一共有するなど、区内の治安維持・向上のために様々な点で連携を強化した。また、「足立区基本構想」の「協働」という理念を受け、区と警察の二者だけでなく、区民との連携・協働も目指すこととなった。

その三者が一体となって、犯罪の無い安全・安心なまちづくりを実現するためのプログラムが「足立区治安再生アクションプログラム」である。平成22年度から、区政80周年

³⁸ <http://www.clair.or.jp/j/forum/forum/articles/gyosei/208/index.html>

「割れ窓理論の四半世紀について」(川原井 豊春)より

³⁹ wikipedia「割れ窓理論」項, 2013/1/17 最終閲覧

に当たる平成24年度までを第一次行動期間とし、3つの基本指針の下、治安再生事業が始まった。

- 1 「足立区総ぐるみ」の犯罪防止対策を展開する
- 2 防犯環境設計による犯罪防止対策を推進する
- 3 社会における規範意識の向上対策を推進する

基本指針は1から順にそれぞれ、短期、中期、長期的な視点に立っており、多方面から足立区の治安を再生する仕組みとなっている。

1「足立区総ぐるみ」の防犯防止対策に関しては、「地域防犯活動助成金」制度を創設し、防犯パトロールを行う住民の団体へ助成金を給付するほか、「青パト」と呼ばれる青色回転灯を装備したパトロールカーを住民にも貸し出すなど、住民の参加を取り入れる仕組みが作られている。時には、危機管理課の職員が住民主体の防犯活動出向き、一緒にパトロールなどをすることもある。足立区危機管理課のA氏によれば、「綾瀬地区では特に住民の活動が盛んで、住民パトロールが頻繁に行われている」とのことである。綾瀬といえば、前述の「コンクリート殺人事件」の現場を含む地域である。

3の規範意識の向上では、ビラ配りや防犯イベントの開催などを通して、区民が自ら犯罪に巻き込まれない努力が出来るよう啓発をしていく。例えば、足立区内で発生する犯罪の約半数が自転車盗であるという事実を踏まえ、自転車に施錠をするように促すビラなどを駅前配布するイベントを定期的に行っている。

規範意識の向上については、同じく危機管理課のB氏曰く、「近年力を注いでいるのが子どもや若者への働きかけである。中高年の住民は自らが犯罪被害者になるというリスクの存在を認識しており、自転車の施錠やひったくり防止ネット等の普及率も高い。一方若者は施錠を面倒に思ったり、ひったくり防止ネットを『格好悪い』と感じ取り付けなかったりする。また、自転車による移動の多い若者自身が軽い気持ちで自転車盗難の加害者になってしまうリスクもある。

そのため、足立区内の高校で生徒会等の協力により校内または学校の周辺で自転車盗難を呼び掛けるビラを配布した。すると、同高校の駐輪場内での自転車紛失の被害が大幅に減少した。また生徒達が街かどに出て、通行人にビラを配布する活動を行った。職員や警察官が配布する場合に比べ、高校生がビラを配布すると、ビラを受け取る通行人の割合が増える。こうした取り組みは一石二鳥・三鳥の効果がある」。

足立区の「ビューティフル・ウィンドウズ」の取り組みを見てみると、ニューヨークや札幌の例と比較すると、住民参加や協働といった言葉が目立つ。警察と役所の連携だけでなく、住民によるパトロールや高校生によるビラ配りなど、地域の人々を巻き込むことに成功している。

こうした「ビューティフル・ウィンドウズ」に対する区の自己評価はどうなっているのだろうか。区HPによれば、

『防犯や美化を中心に、区が地域や警視庁と協力してビューティフル・ウィンドウズ運動

を推進した結果、駅周辺でのごみやたばこのポイ捨て、放置自転車が大きく減少し、「美しく住みよいまち」になったと感じます。ごみや喫煙の定点調査結果でも多くの場所で90%前後減少しています。民間の調査で、北千住が「ひとり暮らし女子が住みやすい街No.1」となったのも、こうしたことが影響しているのかもしれませんが。』

と、運動の効果を評価している。

ここで挙げられている「民間の調査」とはおそらく、オウチーノ総研が2011年11月に行った調査のことであろう。⁴⁰足立区は楽観視しているが、この調査はあくまで、不動産業者としての視点でのものであり、街の住民や住居を探している人々の声は反映されていない。とはいえ、こうして「住みやすい街」としてメディアに取り上げられることは、イメージの向上にとっては有益だといえる。

足立区の事例の評価すべき点は、前述のとおり住民参加が進んでいる点である。警察や区のパトロールに加えて、小・中学校のPTAや町内会・自治会などの住民達により、様々な防犯活動がなされている。こうした活動に参加する人々は、「自らの街を自分で守っている」という誇りを感じる事が出来る。また、直接こうした活動に参加していない人々にとっても、自分たちの街でパトロールが盛んに行われているという認識が治安への安心感につながる。(ニューアークにおける徒歩パトロールの事例が示している。)

しかし、残念ながら、今のところは犯罪発生件数の大幅な減少にはまだ至っていない。最新の2012年の警視庁区市別統計では、新宿区にワースト1を譲ったものの「表向きの治安」が悪い事には変わりはない。今後も継続してこうした防犯・美化活動に取り組んでいくことが求められる。

⁴⁰オウチーノ総研(平成24年12月10日最終閲覧)

<http://hp-socket.jimdo.com/%E8%AA%BF%E6%9F%BB%E3%83%AC%E3%83%9D%E3%83%BC%E3%83%88/111108/>

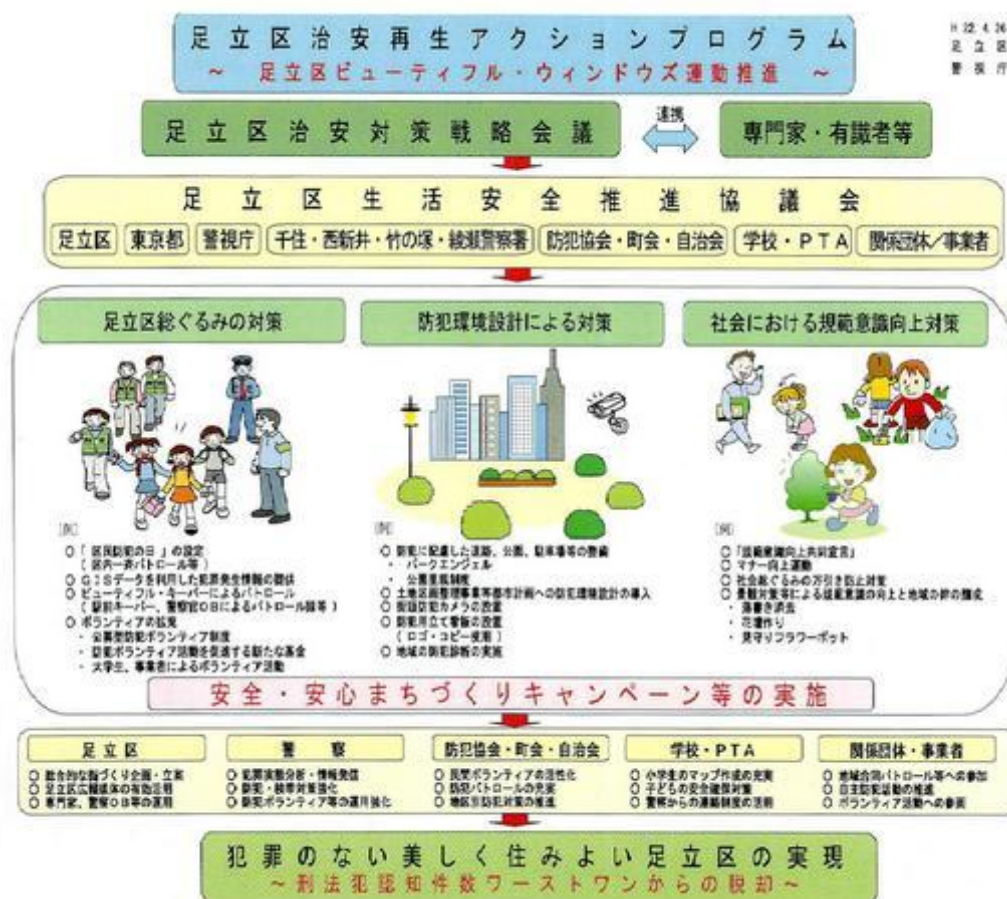


図 10 ビューティフル・ウィンドウズ概要（足立区）

第3節 シティプロモーション課の役割

第2節で見た「ビューティフル・ウィンドウズ」は、治安に特化したイメージ向上施策である。それと並行する形で、足立区はまちと区政そのもののブランド化やイメージアップに取り組む戦略にも取り組んでいる。

その柱となっているのが「足立区経営改革プラン」（平成22年度から24年度）である。区政80周年を迎える平成24年度に向けて、区の仕組みを大きく転換させることを目標とした。このプランに基づいて、平成22年度から新たに「シティプロモーション課」と呼ばれる課が23区で初めて設置された。課長およびシティセールス係長のポストに広告・宣伝等の業務経験のある人材を民間から公募し、マーケティングスキルを駆使して街のイメージ向上を目指していく。

シティプロモーション課は従来の広報課とどういった違いがあるのだろうか。シティセールス係長を務めるBさんに聞いた。

シティプロモーション課は、足立区役所の職員全体が街のイメージアップに貢献できる

よう、縦割りの行政システムの枠組みを超えた調整役である。広報局内には「広報課」と「シティプロモーション課」があり、前者は広報誌や HP などの作成やマスコミ対応といった従来の広報課の役割を継承している。後者は全く新しい組織で、区の全ての局や課が一丸となってイメージアップに取り組む為のアドバイザーでありコンサルタントとしての役割を担う。

足立区は財政的にも厳しく、幾つもの施策に取り組めるわけではない。しかし、足立区や足立区行政にはあまり周知されていない魅力に既に溢れていた。プロモーションの仕方次第でそれらが区民の心をつかむものになると考えている。

例えば、足立区の教育は質が低いと言われる。学力テストでいえばそうかもしれないが、足立区の中学生は部活動の成績など文化・スポーツ面では非常に優秀である。また小中学校の給食にも力を入れている。広報誌などでそういった教育の良い側面を報じるようにし、またそのレイアウトにもこだわっている。特に給食では、区の HP に掲載した記事がきっかけで出版社から「給食レシピ本」出版の声がかかった。

観光課では毎年様々なイベントを行っているが、広報の仕方が適切ではないため集客が伸び悩んでいた。そこでシティプロモーション課がアドバイスをを行い、広報スタイルを変えたところ、区民の満足度も増した気がする。

また、プロモーションを行うのは区民に対してだけではない。区や区民の為に働く足立区職員の側に対するプロモーションも欠かさない。足立区では、職員を単なるコマではなく「足立区の魅力を引き出す重要なアクター」だと考えている。そのため、まずは職員自身が足立区で働く事を誇りに持てるようように職員向けプロモーションを強化している。

このように、シティプロモーション課は既にある区の魅力を最大限に引き出し、区全体の一貫したイメージアップ戦略の先頭に立つ。つまり、『ボトムアップ』と『トップダウン』の両方を行うしくみが成立している。これは従来の上から下へという縦割り行政のイメージとは大きく異なる。こうした行政の懸命な取り組みによって、イメージが改善の方向へと向かうことに期待したい。

第4節 「誇れる街」に向けて

ここまで、行政が取り組んでいるイメージ向上のための戦略を見てきた。治安を向上させる「ビューティフル・ウィンドウズ」と、区の力を最大限活用する「シティプロモーション課」の取り組み。これらは短期間に成果が出るものではなく、数十年かけて取り組んでいかなければならない施策である。行政の地道な取り組みはインターネットなどで広がるイメージに打ち勝つことが出来るのだろうか。現状のままではあまりにも骨の折れる取り組みのように見える。

全国における街のイメージづくりの取り組みが数多くある。例えば、国土交通省中国地方整備局の HP では、「まちの魅力度アップへ向けたアクションヒント集」として、中国地

方の様々な街の魅力づくりを紹介している。⁴¹同じ都内でも、新宿区が「地域商業イメージアップ促進事業」を行ったり、「新宿ロケ地マップ⁴²」を配布したりしている。

こうしたイメージ戦略のうち、成功例をいくつか見ていると、概ね二つのパターンに分けられる。

1つは、イメージが何もない所に新しくイメージを付加するパターンである。東急田園都市線沿線や青葉台など、郊外に作られた住宅地がその典型例である。こうした住宅地は「高級住宅地」という広告の下、イメージが付加価値となっている。こうしたイメージの創出は、資本さえあれば比較的容易である。こうした広告としての都市の理論は、北田暁大の『広告都市・東京』（2002）が参考になる。

もう1つが、元のイメージはそのままに、それと別の観点でイメージを付加する方法である。結果的に元のイメージは弱体化し新しいイメージが影響力を強めるが、多くのイメージが共存する。こちらの典型例は東京秋葉原である。戦後、電機部品闇市から始まり、「家電の街」、「パソコンの街」というイメージを経て、平成に入ると「アニメの街」となった。そして、200年代以降はアイドルやメイドといった「三次元」も含む「萌えの街」へと移り変わった。三宅理一の『秋葉原は今』（2010）では、秋葉原のイメージ戦略について都市計画や住民の動きなどの幅広い視点で描かれている。

一方足立区では、この両者のどちらとも異なり、元のイメージそのものを無くすことを目指している。「治安が悪い」というイメージを「ビューティフル・ウィンドウズ」運動の「うつくしいまちは安全なまち」で覆い隠そうと試みているのである。果たしてこの試みは的を射ているのだろうか。勿論、区民の最大の関心である治安を改善することは重要である。イメージ改善という以前に、治安を向上させることには前向きに取り組んでいかねばならない。しかし、「治安がいい」というイメージに至るまでは、まだ長い時間を要するであろう。

それならば、足立区は秋葉原などの例を見習い、全く別の尺度でのイメージを生み出していくべきである。例えば、第5章第4節で述べた「大学のあるまち」はその一例である。

他にも、伝統の革製品づくりを始めとした「地場産業」や、区部上位の収穫量を誇る「小松菜農業」。小中学生の活躍や舎人公園・荒川の土手、相撲部屋などから「スポーツのまち」。川や公園、自然があふれる「水と緑のまち」。こうした「治安」や「所得」などとは別の面での魅力を住民に気付かせ、治安は悪いと言われるけれど、「ココは誇れる」という魅力を発見・発信していくことが求められるのではないだろうか。

また、子ども達や若者にとっての「誇り」創出はこの地域にとっての大きな課題である。子どもや若者に誇りを持ってもらうためには、「地域教育」が重要である。各学校と地域や

⁴¹ <http://www.cgr.mlit.go.jp/machi-miryokudo/data/miryokudo06.pdf> （2013年2月28日最終閲覧）

⁴² 新宿区観光協会や新宿文化センターなどの施設や、区内のホテル、小田急線新宿駅や西武新宿線高田馬場駅などの事務室で配布されている。Yahoo!ニュース（2013.2.13）
<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20130213-00000034-minkei-113>

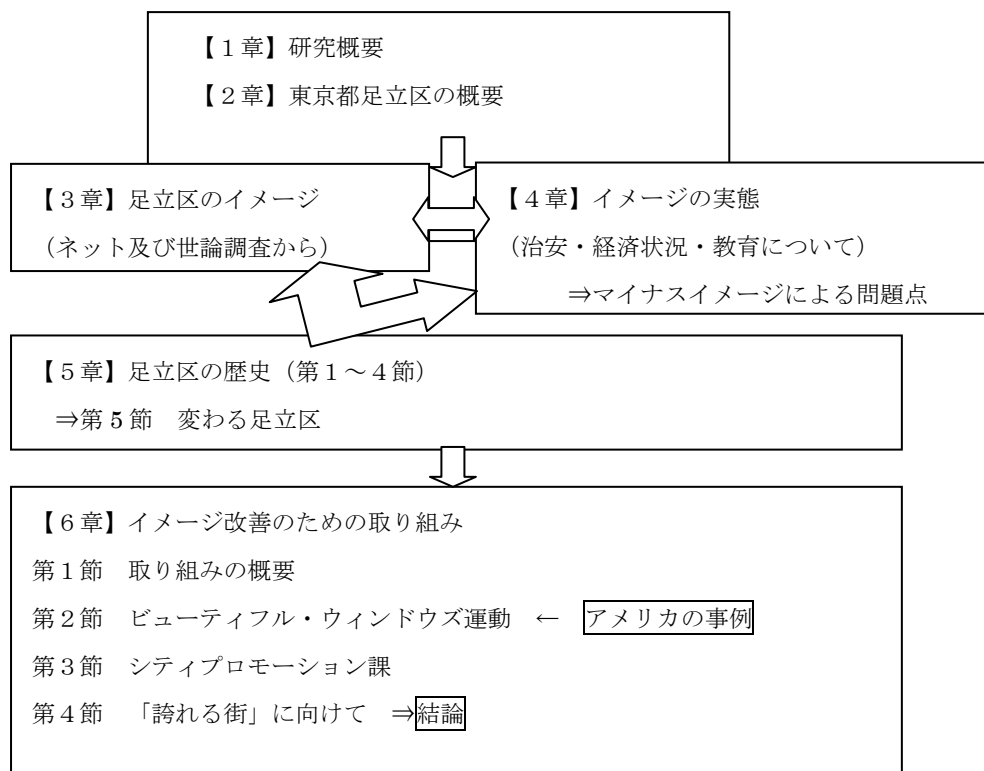
大学との連携の中で、地域の歴史や魅力を子どもたちに教えていくべきである。

足立区を作ってきた先人の努力や、区内で農業や工業を行う人々の生活、やりがいを持って地域活動を行う人々。そうした人々が足立の街を守り、育てていることをインターネット世代の若者たちは知る機会があるのだろうか。治安の向上も大切だが、単なる住宅街ならば全国様々ある。「臭いものに蓋」、では個性のない町になってしまう。治安や経済的な豊かさだけに目を向けるのではなく、足立区ならではの魅力を伸ばしていくことが、イメージ向上に繋がるのではないだろうか。

第7章 まとめ

第1節 論文の流れ

ここでは、第1章～第6章の議論をまとめる形で、足立区の今後を考えていきたい。
下図は本論文の各章の関係性をまとめた関係図である。



まず第1章では、街のイメージと「誇り」を調査するという研究の目的や動機を述べた。そして第2章では、先入観を廃した足立区の地理的特徴、人口、産業などの特徴を述べた。足立区は現在人口が増加し、交通の便が良くなりつつある街でありつつ、鉄道網の不便さや下町であることから地価が押さえられていたことが分かった。一方で、製造業や運輸業などが盛んで、東京や首都圏を下支える地域でもあった。

第3章と第4章は本論の中核である。第3章では、内外からみた足立区のイメージをメディア等の分析から把握し、イメージが具体的にどのようなものであるか明らかにした。足立区は「治安が悪い」というイメージが最も強く、他に「所得が低い」「学力が低い」などのマイナスイメージを持っている事が分かった。第4章では、第3章で述べたイメージと街の実態を比較し、イメージが広まった理由を考えた。そして、足立区が持つマイナスのイメージ（スティグマとして作用する）は、住民が街への「誇り」を失うことで、他の地域に転出する住民が相次ぐ可能性や、子どもや若者のアイデンティティに影響を及ぼす可能性があることを示唆した。

第5章では、第1～4節においてイメージの元となった足立区の世界構造がどのように形成されたかを、区の歴史を通して明らかにした。足立区では関東大震災や戦災からの復

興をきっかけに工業が発展したが、その後全国的な第二次産業の衰退もあり、工場などが移転をしていったことで経済的に困難を抱えることになった。また、「コンクリート殺人事件」という不幸な事件の記憶が、足立区を「下層社会」とする「格差論ブーム」の中で掘り起こされ、現在はインターネットを中心にマイナスのイメージが広がるきっかけとなったことを指摘した。章の終りの第5節では、交通網の発達と大学の進出という、足立区のイメージが変わるきっかけとなりそうな近年の2つの動きに触れた。

第6章では、足立区のイメージを向上するための行政の新たな取り組みに触れることで、足立区のイメージを改善していくための方策を考えた。そして、「治安」の再生だけでなく区独自の魅力を発信していくことが、区民の「誇り」に繋がるのではないかという提言を行った。

足立区のイメージ再生は、まだ始まったばかりである。変化の最中にある足立区と、魅力ある足立区を目指す足立区職員や区民の一人ひとりに期待をしていきたい。

第2節 本論文の意義

本論文の意義は、これまであまり触れられることの無かった負のイメージ、スティグマを抱えた地域におけるイメージの成立やイメージアップの可能性について議論した点である。全国の他のこのような問題を抱えた地域や、世界各国の同様の地域において、住民や行政がスティグマを乗り越えて住みやすい街づくりを行うことに貢献することが出来たら幸いである。また、近年大きな変化を迎える東京新下町地域、とりわけ東京都足立区の2012年現在の姿を描いた点、Q&Aサイトにおける言説をイメージの面から論じた点でも意義があると自負している。

【謝辞】

本研究を行うに当たり、ご指導を頂いた浦野正樹教授には大変感謝しています。期日ぎりぎりまで迷った結果、当初の関心であった「街のイメージ」論で卒業論文の執筆を行う事が出来て大変うれしく思っています。

そして、お忙しい中ヒアリング調査にご協力頂いた足立区職員の皆様ありがとうございました。足立区は人口が多く、職員一人当たりの仕事量も多いなかで、真剣に働かれている皆さまの姿を見て、区政への期待が更に高まり、自身も積極的に参加していきたいという思いが強くなりました。

また、足立区の未来を共に考えた平成22年足立区成人式実行委員の仲間たちへ。皆様との経験が本論文の執筆動機に繋がりました。そして実行委員会関わって頂いた、足立区長近藤弥生様、青少年委員の皆様、シティプロモーション課の皆様、ケーブルテレビ足立の皆様、そして足立稲門会の皆様、ありがとうございました。

最後に、毎週夜遅くまで有益な議論をして頂いた浦野ゼミの皆様、本当にありがとうございました。

【資料】

JR 東日本	つくばエクスプレス	東武鉄道	京成電鉄	東京地下鉄	日暮里舎人ライナー
北千住	北千住	堀切	千住大橋	北千住	足立小台
亀有	青井	牛田	京成関屋	綾瀬	扇大橋
	六町	北千住		北綾瀬	高野
		小菅			江北
		五反野			西新井大師西
		梅島			谷在家
		西新井			舎人公園
		竹ノ塚			舎人
		大師前			見沼代親水公園

表 1 鉄道路線・各駅

サイト名	年月	質問番号	質問内容	回答 (正)	回答 (負)	総数	回答内容・補足等
SOODA!	2008.7	19285	23区内住みやすい所	3		8	物価安い
	2009.5	137435	公園のモスキート音			4	
	2009.7	155962	ガラの悪さ(比較)	0	11	13	江戸川・江東区と比較
	2009.12	204077	特徴全般・治安	0	3	4	
	2010.3	263648	ガラの悪さ・治安	6	8	15	外国人・朝鮮部落・低家賃・ひったくり
	2010.11	317305	貧乏世帯が多い			10	
	2007.1	2657751	女性の一人暮らし		1	5	足立区・江戸川区は治安が悪い
教えて!goo	2007.2	2734258	治安が悪いのか	7	15	24	子育てやイベント充実・治安悪い
	2007.3	2855536	子どもがいて住みやすい区	1	1	5	中学生まで医療費無料でない・住宅賃料が安い
	2007.4	2934588	23区のイメージ		1	1	貧乏人の区
	2007.8	3216995	足立の特産品は	2		2	革製品・小松菜・夏菊・文化フライ
	2007.8	3294026	住み心地、交通の不便さ	2		2	鉄道沿線や駅近は便利
	2007.9	3313723	足立区に限界。23区内で引越をしたい	2	2	6	住民からも人気が無い・足立ナンバーは乱暴運転・市部よりは充実
	2007.11	3554593	最近の足立区の治安			3	犯罪・教育面の不安
	2007.12	3587464	一人暮。中野の不動産やに足立区は辞めたほうが良いと言われた		2	7	足立は住みたくない・ガラが悪い・若い女性は危ない・交通が不便
	2008.1	3679970	新小岩周辺の環境			4	足立区は治安が悪いのと良い噂を聞かないので外したい
	2008.3	3870998	都内で家賃が安い地域		1	4	足立区は都心から近いがイメージが悪い
	2008.4	3929299	子育て環境・治安	1		2	足立区で良かった
	2008.4	3953771	区のどこが治安悪いか			1	竹ノ塚駅周辺
	2008.11	4451827	都内で安全な地域は		2	5	足立区は避ける・家賃の安さは足立葛飾
	2008.11	4452518	治安が悪いか		1	3	殺人事件・学力最下位・給食費未納
	2008.12	4583945	東京都足立区について(治安)	3	2	5	私は好き(出身者)・就学援助率・おすすりできない・治安はいい(住民)
	2009.7	5169883	そんなに酷い所?	2	4	11	部落・都営住宅が多い・下品な人・外国人
	2009.8	5203153	東京の東西地域差別 足立在住で差別された	1	3	4	「川向こう」・治安が悪いのは確か・子育て支援が充実
	2009.9	5314725	少ない年収で子育てに住みやすい環境	1	1	3	足立区は物価が安い・公立学校が荒れている
	2009.10	5340639	23区の都会と田舎	1	1	3	田舎×3・交通の便が悪い・住みやすい
	2009.11	5482513	ネットでは最低ランクだが実際はどんな街か	3		3	
	2010.2	5651407	東京都で住みたくない街		4	9	田舎臭い・足立ナンバーの車に絡まれた・無法地帯・治安が悪い
	2010.8	6093144	足立区への引越で後悔するか	1		2	特段治安が悪いわけではない
	2010.9	6213337	東京都で一番家賃が安いところ	2		5	足立区・葛飾区・江戸川区
	2010.11	6331405	南千住周辺に転居。足立区は治安が悪いと聞き悩んでいる	1	3	8	治安・ピンク系の店・ひったくりなど若年層犯罪
	2011.1	6471082	ヤンキーが多い駅		1	2	東京で一番治安が悪い足立区・自転車盗難・軽犯罪

教えて！Goo	2011.2	6543414	足立・葛飾・江戸川の治安は？	1	1	単なるイメージ。他の地域と比べて多いわけではない
	2011.2	6550161	足立区&墨田区の住みやすさ		2	2 在住者からの批判
	2011.3	6568387	東京転勤。足立区や葛飾区は治安が良くないと聞きビビっている			3
	2011.6	6823296	千代田線沿線足立区の治安	2	1	4 根拠のない偏見・足立区なので悪い方に入る
	2011.10	7079355	23区でイメージが良くない区は		1	4 高所得者層が広めている偏見・行く機会が無い
	2011.1	7120116	足立、荒川、文京区の問題点		1	1 水害・地震への脆弱さ
	2011.12	7181772	何故東京西部は人気居住地なのか			7 (東部は)低地・消極的な土地開発・ブルーカラー
	2011.12	7202539	地域の中学生のお小遣い		1	3 足立区＝低所得の地域
	2012.1	7236307	亀戸と足立区の情報		1	1 土地柄の悪さ
	2012.1	7268265	マンション購入、足立区か草加市か		1	2 犯罪多発・中高生の犯罪
	2012.5	7455444	埼玉南部か足立区・葛飾区か		1	3 草加市に住み住所から足立区を外す
	2012.9	7703175	引越し、23区内		1	4 足立区は23区内でトップクラスに治安が悪い
Yahoo!知恵袋	2009.11	1033061555	足立区がスラム街などと悪く言われる理由は			2 イメージの悪い事件が起きた・治安が悪い・所得水準
	2010.3	1038367190	東京で住みにくい区は		2	4 足立区×2
	2010.7	1044326135	何故足立区は治安が悪いのか		1	2 4 外国人・暴走族・恐ろしい不良・学力最下位・給食費未納・賃貸料の安さ・同和問題
	2012.2	1080576675	東京で治安が悪いのは足立区か		3	6 9 イメージでも安心できない・学力テストワースト1・低所得者が多く身近な所で犯罪が発生
	2012.2	1080909455	足立区は治安が悪いのか		2	4 6 庶民的なまちで治安は悪くない(住民)・足立は危険・粗暴犯が多い
	2007.7	1112206461	足立区は教育水準が低い？		1	1 2 足立ナンバーの車は荒い運転・ヤンキーが多い
	2010.11	1149994721	足立区の子育て環境。治安の悪さや学力の低さが気になる		4	2 6 ネット上はウソ情報・住めば都・暴走族はいる・少年犯罪・人柄が温かい・治安の悪さ・教育低水準
	2011.8	1169457741	足立区は何でガラが悪いのか		3	3 低所得者・生活保護者が多い
	2012.7	1190207161	足立区はどういう住人が多いか		1	3 4 地域差あり西新井北千住は良い・ヤンキーが多い・生活保護・大人のモラルの無さ・人情に厚い
	2012.7	1190907201	年収<生活保護費の足立区は都民にとって闇に葬り去りたいか		1	1
	2011.9	1271217707	足立区の治安		3	1 4 ずっと住み続ける予定・ひったくりは多い・びっくりするほど住みやすい・貧乏ったらしい
	2011.12	1276500707	23区で治安の悪いのは。足立区在住だが治安が悪いと感じる		6	7 読売新聞公認の治安の悪さ・
	2010.5	1340416248	足立区の住環境		6	1 9 低所得者・物価の安さが魅力・歴史的に住環境が悪い・便利で住みやすい
	2012.4	1385967923	足立区には住みたくないが住んでる人はどんな心境か		3	1 4 窮屈・イメージほど治安悪くないので結構住みやすい
	2012.7	1390956888	23区でダメな地域は		1	1 区民年収<生活保護費の足立区
	2012.10	1394215723	足立区の住環境		5	1 6 言う程治安悪くない・住み心地いい・心が荒んだ人が多い・庶民的な雰囲気
	2009.6	1426736464	足立区の学校が荒れているのは本当か		3	4 ホームレス襲撃・暴走族・東京のスラム街・実際に荒れている

表 2 Q&A サイトの分析

自治体名	人口(22年)	面積(24年)	犯罪(23年)	人口1000 人当たり犯 罪数	面積1km ² 当 たりの犯罪 数
総 数	13,159,388	2,188.67			
区 部	8,945,695	622.99			
千代田区	47,115	11.64	3805	8.076	326.890
中央区	122,762	10.18	2884	2.349	283.301
港区	205,131	20.34	5062	2.468	248.869
新宿区	326,309	18.23	9521	2.918	522.271
文京区	206,626	11.31	2143	1.037	189.478
台東区	175,928	10.08	4486	2.550	445.040
墨田区	247,606	13.75	3942	1.592	286.691
江東区	460,819	39.99	5953	1.292	148.862
品川区	365,302	22.72	4171	1.142	183.583
目黒区	268,330	14.70	2897	1.080	197.075
大田区	693,373	60.42	8043	1.160	133.118
世田谷区	877,138	58.08	9341	1.065	160.830
渋谷区	204,492	15.11	6332	3.096	419.060
中野区	314,750	15.59	4550	1.446	291.854
杉並区	549,569	34.02	6216	1.131	182.716
豊島区	284,678	13.01	6882	2.417	528.978
北区	335,544	20.59	4587	1.367	222.778
荒川区	203,296	10.20	2812	1.383	275.686
板橋区	535,824	32.17	7520	1.403	233.758
練馬区	716,124	48.16	8128	1.135	168.771
足立区	683,426	53.20	10363	1.516	194.793
葛飾区	442,586	34.84	5930	1.340	170.207
江戸川区	678,967	49.86	9000	1.326	180.505

表 3 区市別刑法犯発生総数及び人口面積単位での件数

人口…東京都「平成 22 年度 国勢調査人口及び世帯数」より

面積…東京都「平成 22 年国勢調査に基づく人口推計」より

犯罪…警視庁「平成 23 年区市別刑法犯発生件数」より

【ヒアリング対象者】

- ・ 足立区危機管理課危機管理担当係長様
- ・ 同課生活安全推進担当係長様
- ・ 足立区広報局シティプロモーション課係長様

【参考文献】

- ・ 『数字で見る足立 平成 24 年』 足立区, 2012
- ・ 『足立のものづくり』
- ・ 『現代大都市社会論 分極化する都市?』 園部雅久
- ・ 『割れ窓理論による犯罪防止—コミュニティの安全をどう確保するか—』 1996, G.L.ケリング & C.M.コールズ (2004, 小宮信夫訳, 文化書房博文社)
- ・ 『スティグマの社会学 烙印を押されたアイデンティティ』 アーヴィング・ゴッフマン, 2001 (改訂版), 石黒毅訳

【参考 URL】

- ・ 早稲田大学文学部社会学研究室 まちづくり活動の実態と可能性--足立区・荒川区・台東区・葛飾区の現状と課題-- (2002 年度社会調査実習レポート: 社会学演習ⅢC)
<http://www.waseda.jp/sem-muranolt01/Survey2002/ch4.pdf>
- ・ 足立区の歴史と事件 <http://www.pop-2.com/rekisi.html> (「西新井かわら版」サイト内)
- ・ 足立区の産業構造 平成 21 年
http://www.city.adachi.tokyo.jp/somu/ku/kuse/documents/d00600046_1.pdf
- ・ 足立区タウン <http://www.adachiku-town.com/>
- ・ 荒川下流河川事務所 <http://www.ktr.mlit.go.jp/arage/learn/index.html>
- ・ 足立観光ネット <http://adachikanko.net/>
- ・ トップインタビュー足立区長近藤やよい <http://www.newstokyo.jp/index.php?id=152>
- ・ 綾瀬女子高生コンクリ詰め殺人事件 <http://yabusaka.moo.jp/ayasekonkuri.htm>
- ・ 高齢社会白書 <http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2012/gaiyou/index.html>
- ・ 内閣府県民経済計算 http://www.esri.cao.go.jp/jp/sna/sonota/kenmin/kenmin_top.html
- ・ 統計局人口推計 <http://www.stat.go.jp/data/jinsui/2011np/index.htm>
- ・ 東京都教育委員会 <http://www.kyoiku.metro.tokyo.jp/>
- ・ 日本都市計画学会 http://www.cpij.or.jp/com/ac/reports/5-4_121.pdf